



みえ災害ボランティア支援センター (MVSC)

活動報告

2012. 2. 1 ➡ 2012. 12. 31



目次

メッセージ	2
山田町の紹介／被害状況と復興状況	3～4
活動カレンダー	5～6
みえ発！ボラパックⅡ	
* みえ発！ボラパックⅡとは	7
* 団体・グループ 登録～出発の流れ	8
* 事前ガイダンス／出発～帰着の流れ	9
* サロン活動の流れ／参加者の声	10
* 活動内容（団体ボランティア）	11～17
* 活動内容（個人ボランティア）	18～19
* 参加者の傾向	20
* つぶやき／山田町からの声	21～22
* まなびの時間／物資支援／ではってマップ	23～24
県内避難者支援	25～26
啓発活動、情報発信	27
つながろう三重／その他の地域の災害支援	28
みえ災害ボランティア支援センターについて	29～30
収支報告／ご支援、ご協力いただいた企業・団体	31～32
2013年度に向けて	33
資料	34～42



メッセージ

■ 山田町長からの メッセージ



一昨年(2023年)の3月11日の震災から、被災地山田町に対する全国各地からの温かいご支援に感謝申し上げます。

震災前の山田町の人口は19000人余りでしたが、震災後お亡くなりになった方々が約800人、転居なさった方々が1200人で、合計2000人の方々が山田町からいなくなりました。そのほか、800人位の方が住民票を移動しないで他市町村で働きに出ておられます。ですから実際に山田町に住んでおられる方々は、約16000人と推測されます。

今回の震災は規模も大きいのですが、時代背景として日本経済が失われた20年という経済低迷期でありますし、人口減少、少子高齢化というものが、大変な時期の出来事です。日本全国、特にそれぞれ地方は厳しいなかでの多くの方々の支援であります。また国からは復興交付金の配布を受け、大変ありがたく思っております。このお金が早く見えてくればと悪戦苦闘の連続です。

私は町長に就任前には山田町商工会の専務でした。発災直後「みえ災害ボランティア支援センター」の方々と知り合い、お互いに信頼関係も構築されました。多くのボランティア団体の中でも、私は山田町に多くの貢献をいただいた団体だと、声を大にして言いたいと思います。そして、今後とも山田町のことをよろしく願いいたします。

平成 25 年 2 月 吉日
山田町長 佐藤 信逸

■ 三重県知事からの メッセージ



平成23年3月11日に発生した未曾有の大災害から2年が過ぎようとしています。

みえ災害ボランティア支援センターでは、平成23年4月から継続して岩手県山田町を応援しており、平成23年度はがれき撤去などの活動、平成24年度は手芸や音楽、ハンドマッサージなどにより、被災された方々が集い、語り、笑顔になっていただくためのサロン活動を行っています。

被災地から遠く離れた三重県からできることは限られています。私たちは、大災害の記憶を風化させず、被災された方々の気持ちや暮らしに思いを寄せ続けることが大切だと思います。

また、震災の教訓やボランティア活動の経験を今後に生かすことが私たちの使命でもあります。三重県で災害が起こったときに備え、県民の皆さんとともに防災・減災対策に取り組んでいきたいと思っております。

みえ災害ボランティア支援センターは、「被災された方々を応援したい」という多くの団体、NPO、ボランティアの皆さんに支えられています。ご協力いただきました皆さんに感謝申し上げますとともに、今後の支援活動につきましても引き続きご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 25 年 2 月 吉日
三重県知事 鈴木 英敬

山田町の紹介

いわてけんしもへいぐんやまだまち

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県下閉伊郡山田町はリアス式海岸で有名な景勝地「三陸海岸（陸中海岸国立公園）」のほぼ中央に位置し、優美な自然環境に囲まれています。船越半島と重茂半島に抱かれた山田湾は内海で波も穏やかなのが特徴で、その豊富な漁場は牡蠣・帆立・ホヤ・ウニ・鮑・ワカメ・鮭などが有名です。また、椎茸は全国から高い評価を得ており、松茸も国内有数の産地で品質が良く香りが強いのが特徴です。

岩手県内でも積雪量が少なく、四季を通じて過ごしやすと言われています。



東日本大震災と山田町の被害状況

東日本大震災 概要

(気象庁資料より作成)

平成 23 年 3 月 11 日 (金)

14 時 46 分

震源 三陸沖 深さ 24km

規模 マグニチュード 9.0

同日 14 時 49 分

津波警報 (大津波) 発表

主な津波の観測値 (津波観測点)

・ えりも町庶野	最大波	15:44	3.5m
・ 宮古	最大波	15:26	8.5m 以上
・ 大船渡	最大波	15:18	8.0m 以上
・ 釜石	最大波	15:21	4.2m 以上
・ 石巻市鮎川	最大波	15:26	8.6m 以上
・ 相馬	最大波	15:51	9.3m 以上
・ 大洗	最大波	16:52	4.0m

全国の被害状況

(平成 24 年 12 月 25 日 内閣府資料より作成)

死者	15,878 名	全壊	129,724 戸
行方不明者	2,713 名	半壊	267,663 戸
負傷者	6,126 名	一部破損	731,673 戸
全国の避難者数	321,433 名		
※避難所の他、親族、知人宅や公営住宅、 仮設住宅への入居者も含む			

山田町の被害状況

(平成 24 年 12 月 24 日 山田町総務課危機管理室資料より作成)

死者	647 名	全壊	2,762 戸
行方不明者	149 名	大規模半壊	202 戸
応急仮設住宅	1,940 戸	半壊	203 戸
※避難所は平成 23 年 8 月 31 日にて全て閉鎖			
		一部損壊	202 戸
※非住家は含まず			

山田町の復興状況 (平成 25 年 1 月 11 日現在)

山田町では復興計画を概ね 10 年と考え、平成 23 年から平成 25 年を復旧期とし、まちづくりの基礎となる土地や基盤施設の再整備と各種活動の始動を展開していきます。現在は住民との合意形成中です。まち造成工事は平成 25 年度より開始予定。それに伴う住宅建築は早いところで平成 26 年度中頃より着工予定です。また、災害公営住宅は 72 戸の建設予定地が確定されています。



山田祭りでは 2 年ぶりに八幡宮の御神輿が復活し、大勢の観客を魅了しました。



町内各海岸では護岸改修工事が進められています。



被災した船越小学校では元の土地をかさ上げし、校舎を再建中です。



浦の浜地区のがれき仮置き場（現在は処理場）では、分別処理が進んでいます。



山田湾ではカキ・ホタテの養殖棚も増え、復旧しつつあります。

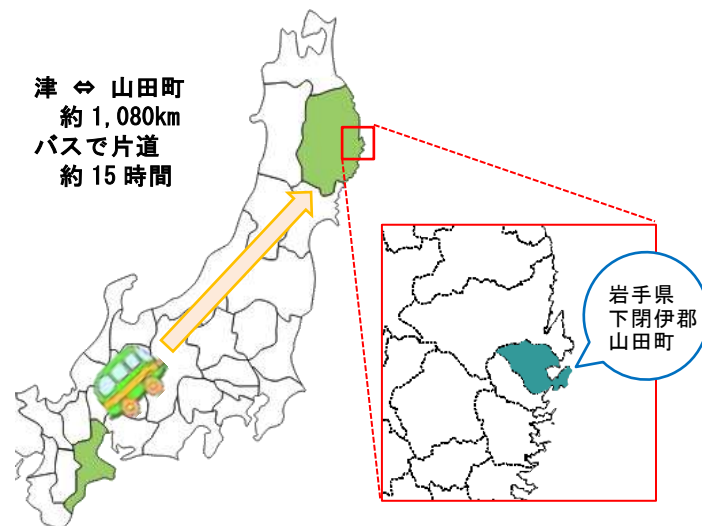


仮設店舗で営業を再開した商店。町内各所に建てられています。

私たちが山田町を支援する理由

ボランティアを行う上で活動先の地域の方々と信頼関係を構築することが必要不可欠と考え、支援先は 1 か所に絞込む事にしました。既に支援に入っている防災 NPO 仲間から情報収集すると共に、

- (1) 首都圏から遠く、ボランティアが集まり難いと思われた
- (2) 長期活動に適した無償の宿泊施設を確保できた
- (3) 三重県東紀州と似たリアス式海岸の町で、復旧・復興の得がたい教訓を学べると考えられた
- (4) 先遣隊調査により三重から支援できるニーズが見つかったなどの理由から山田町を支援することにしました。



活動カレンダー

2012. 2. 1～2012. 12. 31

日付	項目	
※平成 23 年 11 月 5 日 ボラパックⅡ 特別便出発 7 名参加(～8 日)		
2 月		
1 日	出張(調整等)	山田町(森本 1 月 30 日～)
6 日	幹事会	9 名出席
8 日	みえで仲間をつくり隊	第 19 回 打合せ 14 名出席
9 日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
11 日	ボランティアミーティング	開催(津) 26 名参加
11 日	ボラパックⅡ	登録団体・グループ募集開始
12 日	みえで仲間をつくり隊	伊賀市「避難者支援団体ミーティング」6 名出席
16 日	事務局会議	第 3 回 報告書会議
21 日	みえで仲間をつくり隊	第 20 回 打合せ 13 名出席
24 日	出張(研修出席)	津市「平成 23 年度 ボランティアコーディネーター養成研修」出席(山畑)
25 日	みえで仲間をつくり隊	第 2 回 楽しみ隊開催(湯の山)
29 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 合唱団「うたおに」①
3 月		
1 日	ではってマップ	第 2 号 発行
1 日	事務局会議	第 12 回 定例会議
2 日	ボラパックⅡ	ボラパックⅡ 説明会開催(津)
5 日	幹事会	11 名出席
7 日	みえで仲間をつくり隊	第 21 回 打合せ 10 名出席
8 日	ボラパックⅡ	団体打合せ
9 日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
10 日	出張(追悼式典出席)	山田町「東日本大震災・大津波 山田町犠牲者一周年追悼式」出席(番家 ～12 日)
11 日	情報発信	活動報告書(2011.3.11～2012.1.31) 発行
11 日	東日本大震災シンポジウム in みえ	開催(三重県総合文化センター) 163 名(22 団体)参加
11 日	みえ東日本大震災支援団体連絡会(つながろう三重)キックオフ会議	開催(三重県総合文化センター) 74 名(22 団体)参加
13 日	出張(調整等)	山田町(山本 ～15 日)
13 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 桑名の千羽鶴を広める会
13 日	ボラパックⅡ	団体打合せ NPO 法人マイサンクチュアリ
16 日	ボラパックⅡ	団体打合せ
17 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 小春日和(ぐるんぱ)①
18 日	ボラパックⅡ	団体打合せ
18 日	みえで仲間をつくり隊	四日市市「支援の集い」13 名出席
19 日	事務局会議	第 13 回 定例会議
19 日	幹事会	8 名出席
20 日	みえで仲間をつくり隊	第 22 回 打合せ 11 名出席
21 日	出張(広報)	伊賀市(松岡)
23 日	出張(広報)	多気町(番家)
23 日	ボラパックⅡ	第 1・2 便 個人ボランティア募集開始
24 日	ボラパックⅡ	団体打合せ ころネット①
26 日	出張(調整等)	山田町(森本 ～31 日)
31 日	職員退職	1 名退職(事務局)
4 月		
1 日	ではってマップ	第 3・4 号 発行
1 日	ボラパックⅡ	団体打合せ ころネット②
1 日	ボラパックⅡ	個人ボランティア用プログラム(ハンドマッサージ) 指導者講習会
2 日	ボラパックⅡ 第 1 便	事前ガイダンス 桑名の千羽鶴を広める会(桑名)
5 日	職員雇用	1 名雇用(事務局)
5 日	出張(調整等)	山田町(若林 ～7 日)
7 日	ボラパックⅡ 第 1 便	事前ガイダンス 個人ボランティア
10 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 合唱団「うたおに」②
10 日	事務局会議	第 14 回 定例会議
11 日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
11 日	みえで仲間をつくり隊	第 23 回 打合せ 9 名出席
12 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 小春日和(ぐるんぱ)②
12 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 暁明流剣詩舞道①
12 日	出張(VPⅡ前入り)	山田町(松岡 ～16 日)
13 日	ボラパックⅡ 第 1 便	出発 18 名参加(～16 日 ※添乗有)
13 日	出張(広報)	松阪市・津市(番家)
18 日	出張(会議出席)	山田町「山田町平成 24 年度事業計画会議」出席(佐藤)

19 日	事務局会議	第 15 回 定例会議
19 日	事務局会議	まなびの時間ガイド検討 臨時会議
19 日	幹事会	12 名出席
21 日	ボラパックⅡ 第 2 便	事前ガイダンス 個人ボランティア
21 日	ボラパックⅡ	第 3・4 便 個人ボランティア募集開始
22 日	ボラパックⅡ 第 2 便	事前ガイダンス ころネット
23 日	ボラパックⅡ	団体打合せ
24 日	ボラパックⅡ 第 2 便	事前ガイダンス 小春日和(ぐるんぱ)(松阪)
24 日	みえで仲間をつくり隊	第 24 回 打合せ 10 名出席
26 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 手づくり工房・ワイワイ
27 日	出張(VPⅡ前入り)	山田町(松岡 ～30 日)
27 日	ボラパックⅡ 第 2 便	出発 20 名参加(～30 日 ※添乗有)
27 日	みえで仲間をつくり隊	「コープみえ・くらしたすけあいの会」協働事業打合せ①
5 月		
5 日	ボラパックⅡ 第 3 便	事前ガイダンス 個人ボランティア
7 日	事務局会議	第 16 回 定例会議
9 日	みえで仲間をつくり隊	第 25 回 打合せ 11 名出席
10 日	出張(VPⅡ前入り)	山田町(松岡 ～14 日)
10 日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
11 日	ボラパックⅡ 第 3 便	出発 13 名参加(～14 日 ※添乗有)
11 日	ボラパックⅡ	第 5・6 便 個人ボランティア募集開始
11 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 琴修会中勢支部①
14 日	つながろう三重	第 1 回 連絡会
17 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 暁明流剣詩舞道②
17 日	幹事会	11 名出席
18 日	ボラパックⅡ	個人ボランティア用プログラム(アルバムカフェ) 打合せ(津)
18 日	みえで仲間をつくり隊	「コープみえ・くらしたすけあいの会」協働事業打合せ②
19 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 三重ラフター(笑い)ヨガクラブ
19 日	ボラパックⅡ 第 4 便	事前ガイダンス 個人ボランティア
20 日	みえで仲間をつくり隊	第 3 回 楽しみ隊開催(玉城)
22 日	ボラパックⅡ	団体打合せ
22 日	みえで仲間をつくり隊	第 26 回 打合せ 9 名出席
22 日	事務局会議	第 17 回 定例会議
23 日	つながろう三重	みえ出前トーク「三重県における東日本大震災の災害廃棄物処理に関するガイドライン(案)について」勉強会
24 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 合唱団「うたおに」③
25 日	ボラパックⅡ 第 4 便	出発 16 名参加(～28 日 ※添乗有)
28 日	ボラパックⅡ 第 6 便	事前ガイダンス 手づくり工房・ワイワイ
6 月		
1 日	みえボラ新聞	第 9 号 発行
2 日	ボラパックⅡ 第 5 便	事前ガイダンス 個人ボランティア
4 日	出張(調整等)	伊賀市・名張市(松岡)、志摩市・玉城町・度会町・南伊勢町(山畑)、多気町・大台町(森本、事務ボラ)
5 日	出張(調整等)	桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町・四日市市・菟野町・朝日町・川越町・鈴鹿市(番家、事務ボラ)、亀山市・津市(若林)、伊勢市・鳥羽市(山畑、事務ボラ)、大紀町・尾鷲市・紀北町・熊野市・御浜町・紀宝町(伊佐)
6 日	出張(VPⅡ前入り)	山田町(松岡 ～11 日)
8 日	ボラパックⅡ 第 5 便	出発 12 名参加(～11 日 ※添乗有)
8 日	出張(調整等)	松阪市・明和町(山畑)
9 日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
10 日	出張(打合せ等)	津市(佐藤 ～12 日、外館 ～13 日)
11 日	事務局会議	第 18 回 定例会議
12 日	事務局会議	ではってマップ 臨時会議
13 日	みえで仲間をつくり隊	第 27 回 打合せ 8 名出席
15 日	ではってマップ	第 5 号 発行
15 日	ボラパックⅡ	個人ボランティア用プログラム(アルバムカフェ) 指導者講習会①
15 日	ボラパックⅡ	第 8・9・12 便 個人ボランティア募集開始
15 日	幹事会	9 名出席
16 日	ボラパックⅡ 第 6 便	事前ガイダンス 個人ボランティア
16 日	ボラパックⅡ 第 6 便	事前ガイダンス 三重ラフター(笑い)ヨガクラブ
16 日	ボラパックⅡ	個人ボランティア用プログラム(アルバムカフェ) 指導者講習会②
17 日	ボラパックⅡ	団体打合せ
17 日	ボラパックⅡ 第 7 便	事前ガイダンス 暁明流剣詩舞道(四日市)
19 日	出張(VPⅡ前入り等)	山田町(松岡、事務ボラ ～25 日)
21 日	ボラパックⅡ	団体打合せ 津ウキキャラえがおとどけ隊
22 日	ボラパックⅡ 第 6 便	出発 19 名参加(～25 日 ※復路添乗有)
22 日	ボラパックⅡ	団体打合せ
24 日	出張(打合せ等)	津市(外館 ～27 日)

25日	ボラパックⅡ	団体打合せ ふれ愛スポーツクラブ
26日	ボラパックⅡ	団体打合せ 南伊勢高等学校
26日	みえで仲間をつくり隊	第28回 打合せ 9名出席
28日	ボラパックⅡ	団体打合せ 合唱団「うたおに」④
28日	出張(会議出席)	名古屋市内「広域避難者支援ミーティング in 東海」出席(山畑)
30日	職員退職	1名退職(事務局)
7月		
1日	みえで仲間をつくり隊	「コープみえ・くらしすけあいの会」協働事業開始
2日	ボラパックⅡ	登録団体・グループ受付終了
2日	事務局会議	第19回 定例会議
4日	ボラパックⅡ	団体打合せ ぐるんば③
6日	出張(VPⅡ 出発受付)	四日市市(番家)
6日	ボラパックⅡ 第7便	出発 18名参加(～9日 ※添乗有)
7日	ボラパックⅡ 第8便	事前ガイダンス 個人ボランティア
8日	ボラパックⅡ	団体打合せ こころネット③
10日	職員雇用	1名雇用(事務局)
10日	ボラパックⅡ	団体打合せ 三重短期大学①
10日	出張(調整等)	亀山市(若林・森本)
10日	みえで仲間をつくり隊	第29回 打合せ 8名出席
11日	発災(九州北部豪雨)	11日～14日にかけての集中豪雨による影響で九州北部を中心に被害が発生
11日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
12日	ボラパックⅡ	第10便 個人ボランティア追加募集開始
13日	ボラパックⅡ 第8便	出発 17名参加(～16日 ※添乗有)
13日	ボラパックⅡ	団体打合せ ぐるんば④
13日	幹事会	12名出席
16日	事務局会議	第20回 定例会議
17日	幹事会	九州北部豪雨先遣隊報告会 臨時会議 ※(特非)みえ防災市民会議が主催でボラパック等を運行することを確認
18日	出張(調整等)	亀山市(森本)
19日	ボラパックⅡ	団体打合せ 琴修会中勢支部②
19日	ボラパックⅡ	団体打合せ 三重短期大学②
19日	つながろう三重	第2回 連絡会
21日	ボラパックⅡ 第9便	事前ガイダンス 個人ボランティア
22日	ボラパックⅡ 第10便	事前ガイダンス こころネット
24日	ボラパックⅡ 第11便	事前ガイダンス 南伊勢高等学校(南伊勢)
24日	みえで仲間をつくり隊	第30回 打合せ 9名出席
27日	ボラパックⅡ 第9便	出発 21名参加(～30日 ※添乗有)
28日	ボラパックⅡ 第10便	事前ガイダンス 個人ボランティア
8月		
1日	ではってマップ	第6号 発行
1日	ボラパックⅡ	団体打合せ 琴修会中勢支部③
2日	ボラパックⅡ 第10便	出発 20名参加(～5日 ※添乗有)
4日	みえで仲間をつくり隊	第4回 楽しみ隊(関宿) ※延期
4日	出張(調整等)	亀山市(森本、谷畑)
5日	出張(VPⅡ 前入り)	山田町(番家 ～8日)
5日	ボラパックⅡ 第11便	出発 25名参加(～8日 ※添乗有)
8日	みえで仲間をつくり隊	第31回 打合せ 9名出席
10日	ボラパックⅡ 第12便	事前ガイダンス 津っキャラえがおとどけ隊
10日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
10日	事務局会議	第21回 定例会議
11日	ボラパックⅡ 第12便	事前ガイダンス 個人ボランティア
13日	発災(京都府南部地域豪雨災害)	13日～14日にかけての豪雨による影響で京都府南部地域に被害が発生
16日	出張(VPⅡ 前入り)	山田町(松岡 ～20日)
16日	幹事会	※伊賀市社会福祉協議会と共催で【みえ伊賀発！ボラパック宇治】の運行決定
17日	出張(VPⅡ 反省会出席)	南伊勢町(森本)
17日	ボラパックⅡ 第12便	出発 20名参加(～20日 ※添乗有)
17日	ボラパックⅡ	第16便 個人ボランティア募集開始
17日	幹事会	11名出席
18日	みえ伊賀発！VP 宇治	第1便 26名参加
19日	みえ伊賀発！VP 宇治	第2便 22名参加
20日	ボラパックⅡ 第13便	事前ガイダンス 合唱団「うたおに」(津)
21日	みえで仲間をつくり隊	第32回 打合せ 10名出席
22日	ボラパックⅡ	団体打合せ 高田短期大学(津)
24日	出張(VPⅡ 出発受付)	亀山市(番家)
24日	ボラパックⅡ 第13便	出発 36名参加(～27日 ※添乗有)
9月		
1日	出張(調整等)	二見町(森本、事務ボラ)
2日	ボラパックⅡ 第14便	事前ガイダンス 琴修会中勢支部(度会)
3日	ボラパックⅡ 第15便	事前ガイダンス 高田短期大学(津)
3日	事務局会議	第22回 定例会議
7日	ボラパックⅡ 第14便	出発 15名参加(～10日 ※添乗有)

9日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
10日	出張(調整等)	山田町(山本 ～13日)
10日	ボラパックⅡ 第15便	ハンドマッサージ講習会 高田短期大学(津)
11日	出張(調整等)	山田町(若林 ～13日)
11日	ボラパックⅡ	第18・19便 個人ボランティア募集開始
12日	みえで仲間をつくり隊	第33回 打合せ 7名出席
13日	つながろう三重	第3回 連絡会
14日	幹事会	10名出席
15日	ボラパックⅡ 第16便	事前ガイダンス ふれ愛スポーツクラブ、個人ボランティア
17日	出張(VPⅡ 前入り)	山田町(谷畑 ～24日)
17日	ボラパックⅡ 第15便	出発 15名参加(～20日 ※添乗有)
19日	ボラパックⅡ 第17便	事前ガイダンス 三重短期大学
21日	ボラパックⅡ 第16便	出発 16名参加(～24日 ※復路添乗有)
25日	みえで仲間をつくり隊	第34回 打合せ 6名出席
26日	ボラパックⅡ 第17便	出発 14名参加(～29日 ※添乗有)
27日	出張(VPⅡ 緊急対応)	津市(佐藤 ～28日)
10月		
1日	事務局会議	第23回 定例会議
5日	ボラパックⅡ	第20・21便 個人ボランティア募集開始
5日	幹事会	9名出席
6日	ボラパックⅡ 第18便	事前ガイダンス 個人ボランティア
8日	出張(調整等)	山田町(山本 ～10日)
8日	出張(調整等)	二見町(森本、谷畑、事務ボラ)
9日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
10日	出張(調整等)	亀山市・津市(森本、谷畑)
10日	みえで仲間をつくり隊	第35回 打合せ 7名出席
12日	ボラパックⅡ 第18便	出発 9名参加(～15日 ※添乗有)
20日	ボラパックⅡ 第19便	事前ガイダンス 個人ボランティア
20日	みえで仲間をつくり隊	第5回 楽しみ隊開催(二見)
22日	みえボラ新聞	第10号 発行
23日	出張(調整等)	亀山市(森本、谷畑)
23日	みえで仲間をつくり隊	第36回 打合せ 7名出席
26日	ボラパックⅡ 第19便	出発 16名参加(～29日 ※添乗有)
11月		
2日	出張(調整等)	亀山市(森本)
3日	ボラパックⅡ 第20便	事前ガイダンス 個人ボランティア
4日	出張(調整等)	山田町・大槌町・盛岡市(松岡 ～7日)
4日	出張(シンポジウム出席)	南伊勢町「津波防災シンポジウム」出席(若林、森本)
5日	事務局会議	第24回 定例会議
6日	出張(会議出席)	盛岡市「第5回現地会議 in 岩手」出席(松岡、佐藤、外館)
8日	出張(調整等)	亀山市(森本)
8日	幹事会	12名出席
9日	ボラパックⅡ 第20便	出発 11名参加(～12日 ※添乗有)
10日	ボラパックⅡ	個人ボランティア用プログラム(手づくり工房・フワイワイ お雛さま手芸) 打合せ
10日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
14日	みえで仲間をつくり隊	第37回 打合せ 8名出席
16日	出張(調整等)	四日市市・亀山市(森本、谷畑)
17日	ボラパックⅡ 第21便	事前ガイダンス 個人ボランティア
17日	みえで仲間をつくり隊	第6回 楽しみ隊開催(亀山)
23日	ボラパックⅡ 第21便	出発 15名参加(～26日 ※添乗有)
23日	ボラパックⅡ	冬季便 団体ボランティア募集開始
27日	出張(調整等)	亀山市(森本、谷畑)
27日	みえで仲間をつくり隊	第38回 打合せ 9名出席
30日	出張(打合せ等)	磯部町・津市(外館 ～12月3日)
12月		
1日	出張(打合せ等)	津市(佐藤 ～3日)
1日	出張(研修会出席)	磯部町「自主防災リーダー研修」出席(森本、外館)
2日	事務局会議	第25回 定例会議
2日	ボランティア交流会	開催(津) 57名参加
5日	出張(調整等)	鈴鹿市(山畑)
7日	出張(調整等)	鈴鹿市(山畑)
7日	幹事会	9名出席
10日	みえで仲間をつくり隊	避難者向け情報発送
12日	みえで仲間をつくり隊	第39回 打合せ 9名出席
12日	つながろう三重	第4回 連絡会
13日	ボラパックⅡ 第22便	事前ガイダンス 幹事団体
16日	出張(調整等)	山田町(山本 ～18日)
21日	出張(報告会出席)	山田町「山田町連携支援団体報告会」出席(佐藤、外館)
21日	出張(VPⅡ 前入り)	山田町(若林、番家 ～23日)
21日	ボラパックⅡ 第22便	出発 13名参加(～24日 ※添乗有)
25日	みえで仲間をつくり隊	第40回 打合せ 9名出席

みえ発！ボラパックⅡとは

平成 23 年 4 月～11 月まで岩手県山田町へと 36 便・のべ 648 名のボランティアを運んだ「みえ発！ボラパック」。東日本大震災から 1 年が経ち、今年度の再始動にあたり、昨年度のノウハウを活かしつつ形態を変えての運行となりました。被災された方々が、ひととき災害から離れられる楽しい時間を作るお手伝いとして活動する「みえ発！ボラパックⅡ」は、山田町社協復興支え愛センター（旧山田町災害ボランティアセンター）の協力のもと、平成 24 年 4 月～12 月まで 22 便のバスを運行し、述べ 386 名のボランティアを山田町へと運びました。



ボ
ラ
パ
ッ
ク
Ⅱ

【
ち
が
い
】

ポ
ラ
パ
ッ
ク

- [団体ボランティア派遣] と [個人ボランティア派遣] を実施
- 文化や運動、教養を通じて『ふれあい』を中心とした活動内容
- 参加しやすいよう週末を挟んだ 4 日間の行程（※例外あり）
- 事務局スタッフ添乗＋現地スタッフで活動を全面サポート

★ 団体ボランティア ★

現地で活動したい文化・教養などのプログラムをご提案の上、原則 3 名以上で事前に登録いただく団体ボランティア。現地のニーズとマッチング・日程調整を行い、参加いただきました。

★ 個人ボランティア ★

一般募集によるボランティア。団体の応募がない便、または団体バスの席に余裕がある場合の募集となりました。現地ニーズ・サロン活動・団体の活動補助を行っていただきました。

【
心
が
ま
え
】

被災地でボランティアする上で最も重要な心構えとして、昨年度の「ボラパック」では、自己責任・自己完結などのボランティアとしての原則や、チームの一員としての責任のある行動をお願いしていました。

今年度の「ボラパックⅡ」では、活動の中で被災された方々と直接お話する機会が多いため、接する上でのポイントをお伝えして出発に備えていただきました。

被災された方と接するうえで気を付けていただきたいこと

- そばにいる
 - ・相手の状態により、寄り添う事で安心感を与えられる
- 親身になって話を聴く
 - ・次々と質問することを避ける
 - ・話を横取りしない
 - ・相手の話を自己流に解釈しない
 - ・先入観を持たない
- 相手の感情を受け止める
 - ・悲しみや怒りは表に出すことが必要な感情であるため、代弁や同意をせず耳を傾ける
 - ・安易な慰め（元気づけ）はしない
 - ・相手の話に反論、批判、否定しない

事務局ボランティア

三重からできるボランティアとして、登録いただいている事務局ボランティアの皆さん。「ボラパックⅡ」でもみえボラの最も心強いサポーターとして様々な場面で活躍いただきました。

- ・事前ガイダンスの設営準備・司会進行・説明
- ・講習会の補助・指導
- ・「ボラパック」出発・帰着時の受付・お見送りお出迎え
- ・ビブス(ユニフォーム)の洗濯
- ・活動で必要となる物資の準備・キット作り
- ・ではってマップの修正

事務局ボランティア登録者数

146 人



団体・グループ 登録～出発の流れ

「みえ発！ボラパックⅡ」の団体を主体とした寄り添い・ふれあい型の支援は、センターとしても初めての試みであり、試行錯誤を繰り返しながらの運営となりました。登録団体募集開始当初には、関係各所に募集チラシ配布を依頼し、団体参加の呼びかけを行いました。また、2年目の被災地支援に関心のある方対象に、ボラパックⅡ説明会（平成24年3月2日）を実施し「みえ発！ボラパックⅡ」の方針等を説明し理解いただく機会を設けました。

※三重側の動き

※山田側の動き



最初に…

団体グループ登録

「みえ発！ボラパックⅡ」の趣旨に賛同し、協力いただける団体を平成24年2月11日より募りました。NPO・企業・学校・サークルなどのほか、ボラパックに参加するため、仲間を集めて新たな団体を結成し、登録する参加者もいました。

登録後 随時… 打合せ

- 団体代表者との打合せ（1～複数回）
打合せ項目：
参加情報（希望日程・人数）、活動情報（内容・対象者・場所・時間・チラシ）、その他（助成金、事前ガイダンス・宿泊・まなびの時間）など

打合せと 並行して… 現地調整

- 参加可否検討・決定
現地スタッフおよび山田町社協復興支援愛センターと、団体の活動が現地のニーズに合うか相談・検討しました。
- 現地での同類活動団体の確認・紹介
活動によって、団体同士で事前に直接繋がり調整できるようにサポートしました。

参加確定後… 活動場所調整

- 山田町社協復興支援愛センターに「活動事前申込書」提出
- 活動場所（仮設住宅団地・公共施設など）選定・調整
仮設団地：ほっとサポートセンター山田
公共施設：山田町社協復興支援愛センター、現地スタッフ
- 活動場所決定後の設備等の確認

数週間～数日前… 事前ガイダンス

- オリエンテーション
 - 各参加者の申込書提出確認
 - 活動内容の再確認・調整
 - 団体誓約書の説明・署名
 - ボランティア保険加入手続き
- ※活動補助に個人ボランティアが必要な場合、個人ボランティア事前ガイダンス時の活動事前説明・研修を団体に依頼しました。



数週間～数日前… 活動告知

- 告知チラシ作成・準備
- ポスティング（活動場所：仮設団地など）
現地スタッフや、時にはみえボラの活動の1つとして、チラシを活動先や談話室等がない周辺仮設1軒ずつに配布しました。
- その他（活動場所：公共施設など）
「広報やまだ」への掲載や、主要施設等へ掲示の依頼をしました。



数日前… 事前準備

- 配車や活動備品（机・イス）の確認・調整
- 宿泊予約および食事（昼食）予約など

出発当日

- リーダー（＝団体代表者）打合せ
出発直前または車中にて、行程や役割などを最終確認・調整しました。
- 参加費支払い・ビブス等受取り→出発！

事前ガイダンス

「ボラパックⅡ」でも、参加される方には事前ガイダンスの出席を必須条件とし、オリエンテーションにより、現地の状況、心構えなどを共有し、出発に備えていただきました。基本的に「団体」と「個人」に分けて事前ガイダンスを行いました。

団体ボランティア向けガイダンス

団体の要望に合わせて日程を調整し、時には出張ガイダンス等も行いました。（※詳細は、P.8をご覧ください）

個人ボランティア向けガイダンス

個人ボランティア向けの事前ガイダンスは、出発の約1週間前に行いました。昨年同様、受付・司会・進行などを事務局ボランティアの皆さんにお手伝いいただきました。



講習会

個人ボランティアの方には事前ガイダンス終了後、当センターから提案する活動、または団体ボランティアの補助など、活動内容の講習会を受けていただきました。それぞれの活動の目的や意義を共有した上で、現地で実際に活動する流れのシミュレーション、教える側・受ける側、どちらの立場も体験していただきました。

事務局ボランティアの皆さんには、講習会よりも更に事前に活動内容を習得し、準備や指導をお手伝いいただきました。

〈ご協力いただいた団体〉

- ・NPO 法人 マイサンクチュアリ
- ・三重県カメラ商組合
- ・富士フィルム株式会社
- ・手づくり工房・ワーイワイ



出発～帰着の流れ

「ボラパックⅡ」の出発から帰着までの行程の一例です。「ボラパック」より滞在日数が少なくなり、ぎっしりと内容の詰まったスケジュールになりました。

山田町に到着！長時間移動お疲れ様でした！

支え愛センターにて活動前のオリエンテーション！

鎮魂と希望の鐘を響かせて、黙祷を捧げます。

民宿組は、嶋田鉱泉さんのバスで送迎していただきました！

かわいキャンプ組のミーティングは食堂でにぎやかに！

もちろん目覚めのラジオ体操は引き継いでいます！

昼食などで山田の幸を食べられる機会もしばしばありました！

帰りのバスでのミーティングは、参加者の熱い想いの交流の場。

1日目

夕方 津を出発！
— 車中泊 —

2日目

朝	山田町に到着！
午前	まなびの時間
午後	ボランティア登録 ボランティア活動①
夜	ミーティング（宿泊所）

— 民宿・無料宿泊所に分かれて宿泊 —

3日目

午前	ボランティア活動②
午後	ボランティア活動③
夕方	山田町を出発！ ミーティング（車内）
夜	花巻市にて入浴・夕食

— 車中泊 —

4日目

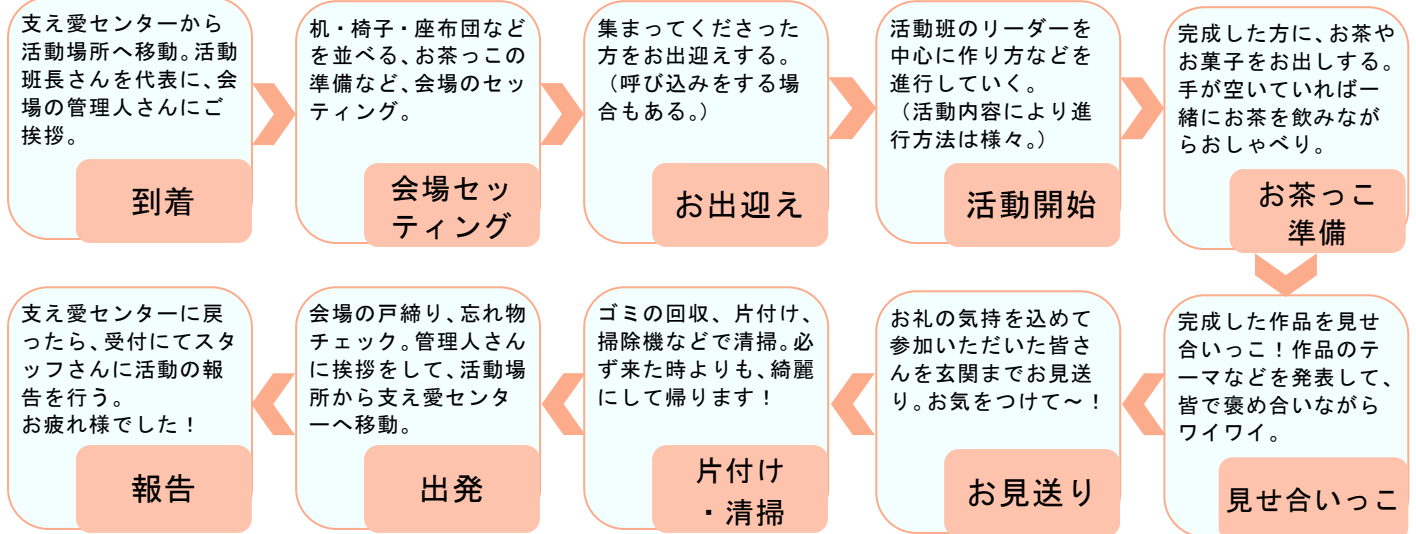
朝 津に到着！
— お疲れ様でした —

サロン活動の流れ（一例）

現地で行ったサロン活動の《活動場所への到着から活動報告まで》の大まかな流れをご紹介します。活動内容によって進行方法は様々ですが、こちらは「物づくり」をした場合の一例です。1ヶ所、約1時間半の活動ですが、時間いっぱい楽しんでいただける空間づくりを目指して試行錯誤しています。



【お茶(ぢゃ)っこ】とは？
東北の方言で
お茶のことです★



参加者の声

参加された皆さん、リピーターや初参加、活動内容も異なるそれぞれの視点から「参加した感想」をお寄せいただきました。

「みえボラが募集しているから行く？」夫からの一言をキッカケに、まるで誰かに時を示し合わされたかの様に家族3人での参加が決まりました。参加前は多少の不安がありましたが、現地では予想に反して会話が弾み、楽しい時間を過ごしました。短い活動から被災された方の心奥の深い悲しみはわかりませんが、同じ時空を共にした思い出を心の中に一つずつ増やして前向きに生きる僅かなキッカケになればと心から願います。親子3人の初ボランティア！意味のある貴重な経験になりいつまでも大切にしたいと思います。



第20便
中村 壽志さん
恵子さん
大助さん

ポスティングで仮設住宅を回っていると、住民の方から「三重県さんでねんす。今度は何やってけんの？」と声をかけて頂いたり、以前に参加して頂いた活動の話で盛り上がりたりと、『みえボラ』の活動を楽しみにして頂いていることが感じられます。ひとり一人の活動は1日半と短く、参加された方の中には物足りなさを感じる方もいると思いますが、自分の想いをオレンジ色のピブスに込めて、次便・次々便へと想いと活動を繋げていくことが、大事なことだと感じました。



第5・6・9・
12・16・18便
伊藤 正幸さん

私は1年半前から東北に行きたいと思っていました。そして2012年10月、やっと山田町へボランティアに行きました。たくさん親切な人に会い、笑ったり、話をして時間を過ごしました。色々な人にわざわざ来てくれてありがとうと言われましたが、皆さんの笑顔が見ただけで十分でした。私が受け取ったもっとも素晴らしいギフトは、『思いやり』です。人と人との関わり合いや思いやりが私を日本に7年間留めています。人と人との関わり合いが、近い未来東北を癒してくれると信じています。山田町ありがとう！



第18便
デイビッド・
コークルさん

5月に「桑名の千羽鶴を広める会」の一員として参加しました。その後もお近くの方に教えてあげたいと続けて折っていただいていることなどから、微力ではありながらも何かを手渡せたことが嬉しかったです。そして、11月には個人ボランティアとしての再びの訪問。ちょうど町の文化祭が行われている日でした。わずか半年の間にお店も増え、がれきとなった被災財の山も小さくなり確実に復興されていく姿に勇気をいただきました。



第3・20便
志治 優美さん

現地では、仮設住宅でのハンドマッサージと畑の再建のお手伝いをしました。この活動を通して、現地の方々が復興に向けて少しでも前向きになれるように今後も息長い継続的な支援をしていかなければいけないと感じました。私自身もこの震災での教訓を活かして、進学予定の大学院では地域防災とその後の復興支援をどうすべきかについて、勉強、研究していきたいという気持ちになり、このボランティアでそれが明確になって本当によかったです！



第2便
片山 誠一さん

活動内容（団体ボランティア）

団体ボランティアを中心として運行した「ボラパックⅡ」。1便から22便まで、参加いただいた計15団体の活動をご紹介します。持ち込んでいただいたプログラムは、多種であり、様々な方が参加できる機会をつくっていただきました。

当初は手編みしたものを物資として配布するのみの予定でしたが、「せっかくなら山田町の皆さんと顔を合わせて届けてほしい」という当センターからの提案を快く受けていただき、特別便の運行が決まりました。会場確保・告知など、現地での調整に苦戦しましたが、この経験が「ボラパックⅡ」の活動に活かされています。参加された町民さんから趣味の編み物を再開することができたという声や、編み物教室を始められた方など、現地でも嬉しい報告をいただきました。

NPO法人 ウィミィ

参加便：特別便（平成23年11月5日～8日）

人数：7名

活動内容：編み物教室、腹話術、大正琴演奏

2班に分かれ仮設団地談話室・公共施設にて2ヶ所同時開催し、計4ヶ所の編み物教室を実施。

編み物は、お子さまでも楽しめるペットボトル編みから上級者向けの高度な物まで様々な種類で対応。その他、腹話術や大正琴の伴奏による唱歌の合唱などの催しも加え、温かい空間づくりをされました。活動後も、季節に合わせマフラーなどの物資、また毛糸や編み棒などの資材の寄贈による支援も続けられています。



ボラバスに参加して、NPO法人ウィミィ「あつたまる・編み物を送ろう」も2年目。たくさんの協力があり（女性約100名（殆ど60代～））この活動を始めてから皆が元気を貰った。ある80代女性は電話で「何かお役に立ちたいと思っていた」と編んだものをいっぱい届けてくれた。本当に嬉しかった。災害も明日は我が身。私達は「助け合い」の気持ちでこれからも応援して行きたい。そして山田町の方がたも元気になって欲しいです。

代表 出口 いつ子さん

桑名の千羽鶴を広める会

参加便：第1便（4月13日～16日）

第3便（5月11日～14日）

第5便（6月8日～11日）

人数：8名、5名、4名

活動内容：連鶴教室

「ボラパックⅡ」開始の4月から、5月、6月と毎月続けて参加いただき、団体としては最多の3便乗車。仮設団地談話室・集会所、公共施設などで折り鶴教室を開催。

たくさん繋がった鶴は、とても珍しく、現地の方の興味を一目で惹きつけました。現地でも「桑名の連鶴」として、よく知られるようになり、サロンで連鶴の技術を覚えて、現在も趣味として続けている参加者も大勢います。連なった鶴のように寄り添い、息長く想いが繋がっています。



代表
高木 文子さん



「今後はいつ来るの？」その言葉が心に残った最初の訪問。繋がっている鶴を手にしてトツテモ嬉しそうなお顔を見ながら「また来ますね、必ず来ますからね」と帰ってきました。「時間の許す限り何度でも」との決意も山田町の土を踏むのが4度目で途切れています。それでも「必ず会いに行きたい」と自分自身に誓っています。隣の親類のお家でお世話になっていらっしゃる方が「皆に良くしてもらって本当に有難い。でもやっぱり自分の家に帰りたい！」と。1日も早くこの思いが叶う日を祈っています。

山田町から



青山 則子さん

三重県から来てくださった気持ち、「人ってつながっているんだ」という気持ちがありがたかった。ひとこと、ふたこと言葉を交わしただけで、あたたかい心が伝わってきたことは忘れません。

活動内容（団体ボランティア）

こころネット

参加便： 第2便（4月27日～30日）
第10便（8月2日～5日）

人数： 9名、13名

活動内容： 大人も子どももわくわく広場（工作など）、音楽会、
山田さまあちゃれんじ（木工教室・テントペイント）



仮設団地談話室・集会所、公共施設などで工作などを中心にお子さまから大人の方までが楽しめるサロン活動を実施。福祉施設では、音楽会を通して利用者の方々との交流を行いました。

第10便では、山田町社会福祉協議会主催の『山田さまあちゃれんじ』に講師として依頼を受け、小中高生を対象に、マガジラックと椅子の木工教室、真っ白なテントへのペイントを行う美術教室を行い、子ども達と一緒に夏の思い出を描きました。

代表
杉本 熊野さん



被災地を何度か訪れる中で、子どもたちや女性へのきめ細かい支援が必要であることを実感し、「face to face」「被災者と支援者をつなぐ」を基本に支援活動を開始しました。口コミで支援者はどんどん増え、ネットワークが広がっていきました。仲間の思いをつないでいきたいと願い、2012年3月11日「こころネット」を立ち上げ、第2便と第10便に参加しました。これからも「みんなで出来ることを出来るだけ」やっていきます。

山田町から



はまなす学園施設長
芳賀 幸一さん

マラカスの手作りに始まった「音楽会」。電子ピアノとギターの生演奏、心のこもった歌声にびっくりし、感激しました。狭い仮設生活が続き、限られた行動しか出来なかった分、利用者様も声を出し積極的に参加できました。利用者様もこのひと時を忘れる事がないと思っております。大変ありがとうございました。

ぐるんぱ（小春日和）

参加便： 第2便（4月27日～30日）
第9便（7月27日～30日）

人数： 3名

活動内容： 大人の絵本・ギターカフェ、折り紙



仮設団地談話室・集会所で、大人の方に向けた絵本の読み聞かせを中心に、ギター演奏に合わせた歌唱や、折り紙教室などの活動を実施。

絵本の魅力に大人も子供も引き込まれ、絵本を通じた交流により住民同士の新たな一面を発見する機会にもなりました。また、ギター演奏に癒され、懐かしい童謡・唱歌を口ずさみ、温かい空間づくりとなりました。折り紙は、教えたり教えられたりしながら、ボランティアも参加された方もお互いに笑顔の耐えない思い出に残る時間となりました。

山田町から



織笠第二仮設団地 昆 喜一さん

その節は大変お世話になりました。皆さんが来てくれたおかげで、毎日をととても楽しんでます。折り紙も続けています。ありがとうございます。また会いたいです。

毎月一回、私が主催する絵本カフェが始まる前に、みんなでメッセージを書いた鶴を折り、千羽になったらどこかの団体に届けてもらおうと考えていました。何年かかっても、忘れないことが大事だという想いで。家では息子達も一緒に折ってくれていた中、ある日次男が「東北へボランティアに行きたい」と言い出しました。彼自身、悩んでいる時期でもあったので、息子の「行きたい」という一言が私の背中を押してくれ、親子で参加し、願いを込めた千羽鶴を手渡しすることができました。



西浜 良子さん
拓馬くん

自分ではボランティアをしっかりとできたというより、もう少しやればよかったという悔しさがあつたけれど、山田町の方々はすごく喜んでくださって嬉しかったです。山田町の方々は、笑顔で優しい方ばかりでした。一緒に参加した方々も、いい方ばかりで僕はすごく楽しかったです。僕にとっては、とてもいい経験になりました。

活動内容（団体ボランティア）

三重ラフター（笑い）ヨガクラブ

参加便：第6便（6月22日～25日）

人数：5名

活動内容：笑いヨガ体験会



2班に分かれ各3ヶ所、計6ヶ所、仮設団地談話室・集会所にて「笑いの体操」と「ヨガの呼吸法」を取り入れた笑いヨガ体験会を実施。

—『笑いヨガ』って一体何だろう？—と興味津々で集まってくださったたくさんの方々と共に高らかな笑い声を響かせました。時折、尺八の演奏やマジックなども取り入れ、呼吸を整えながら時間いっぱい笑っていただきました。参加された方々には、心も体もリフレッシュ、「笑い」を通じて様々な感情を表に出し、ぶつけ合ってもらうことができました。参加者の皆さんが「楽しかったね！」と笑い合いながら帰っていく姿は、大変嬉しい光景でした。

鈴木 真一さん



震災発生から1年余り。まだまだ笑うことなんてできないのでは…不安を抱きながら、「笑いヨガ」というおみやげを携えて山田町に向かいました。参加できない会員と作ったミニカホン10台も一緒です。仮設住宅集会所に集う人たちと、共に笑い、歌い、語り合う中で、感激の涙もたくさん流してくださいました。孤独になりがちな日々の暮らしから抜け出し、見せ合うことのできた笑顔は、弾けるよう。訪問した私たちがたくさんの方の元気をもらって帰りました。

山田町から



山田第四仮設団地
湊 義雄さん

「笑いの大切さに感謝」震災前まで何げなく笑っていた笑い。今そんな笑いが出来ているのだろうか。今こそ笑い声を上げなくては。あと押ししたのが「笑いヨガ」ヨガを開いて…！？参加した皆さんが笑顔で集会所を後にする。今度は自分達の手で「笑」を取り戻す。三重県の皆さんありがとう。

手づくり工房・ワイワイ

参加便：第6便（6月22日～25日）

第19便（10月26日～29日）

人数：6名、2名

活動内容：手芸教室



各便3ヶ所、計6ヶ所、仮設団地の談話室・集会所にて手芸教室を実施。第6便ではふくろうづくり、第19便ではお雛さまづくりを行いました。

震災前から手芸を趣味とする方が多くいらしたため、会場には身動きが取れないほどたくさんの方が集まってくださいました。細かいパーツなどをキットにまとめて準備をされ、手芸に慣れていない方にもスムーズに作成できるよう工夫をこらした活動となりました。また、第19便での活動が大変好評であったため、ワイワイさんの協力のもと、第21便で個人ボランティアの皆さんにお雛さまづくり活動を行なっていただきました。



代表
井谷 三枝子さん

去年2回ボラパックに参加し、今年度は団体として活動しました。現地でも知った方にお会いした時は、第二の古里に久しぶりに帰ったようでした。皆様の温かいおもてなしの表情や言葉に安堵しました。1回目はフクロウのリース作り、2回目はお雛様作り。その後又、お雛様作りをして欲しいとの要請があり、皆様の生きがいややる気に繋がればいいと、嬉しく協力させて頂きました。私達の願いは皆様の笑顔がみたい！ただそれだけです。我が身に置き換えて協力しあえる体制を作りたいと思います。

山田町から



船越第二仮設団地
岡市 智子さん

短時間での手芸、フクロウのリース作りをして、「ああ私でも出来るんだな」と、とても嬉しかったです。皆で良く出来たがねと喜びました。リースはクリスマスに玄関に飾りましたし、参加して良かったと思っています。またいつか会う機会があれば嬉しいです。本当にありがとうございます。

活動内容（団体ボランティア）

眺明流剣詩舞道

参加便：第7便（7月6日～9日）

人数：18名

活動内容：剣詩舞道の公演・体験会

仮設団地集会所や福祉施設で「剣詩舞道ふれあい公演」を実施。

前半では剣舞・詩舞の演舞を觀賞いただき、普段なかなか観られない舞に見入る方や、中には演舞曲を口ずさみながら楽しむ方もいました。

後半では希望者全員に扇を使った簡単な詩舞体験をしていただき、認定書の発行もありました。詩文に込められた意味や情景を体現する事は、健康的にも精神的にもよいと言われ、踊りの経験者から初心者まで気軽に楽しく伝統芸能に触れられる良い機会となりました。



山田町から



恵の里 眺望
野田 権右さん

みえボラの皆様には遠いところからおいでいただき感謝しております。当事業所には眺明流剣詩舞道治眺館の皆様が慰問に来てくださりました。免状までいただき、利用者さんも大変喜んでおりました。ありがとうございます。

同じ目線で剣舞、詩舞を舞い、顔の表情が穏やかになって笑顔が我々にとって、とても気持ちよく舞うことができました。まなびの時間での、理容店ご主人の被災された様子、避難所暮らしのお話には、皆涙を流し聞き取りました。大変な経験された事、私達は一生忘れないでしょう。私達の趣味の剣舞、詩舞で少しでも元気になって頂けたかなと思っております。



岩田 眺東さん



久保 志郎さん

東日本大震災からまもなく2年になろうとしている。宗家から山田町で剣詩舞道ふれあい公演を計画しているとお話があったので、私は参加することにした。私たちは、仮設住宅、老人福祉施設において剣詩舞道ふれあい公演を行った。被災された方々と一緒に舞扇を使って詩舞教室を開き、笑い声も出て楽しくふれあうことができ、逆に元気をもらった感じがした。

琴修会 中勢支部

参加便：第14便（9月7日～10日）

人数：15名

活動内容：大正琴ミニコンサート・体験会

寺院や民宿、福祉施設で大正琴ミニコンサートおよび体験会を実施。ミニコンサートでは、大正琴の音色を懐かしむ参加者や、演奏にあわせて手をたたいたり、歌ったりと楽しい時間を過ごしていただきました。体験会では、希望者一人一人に「ふるさと」の丁寧な指導があり、最後まで弾けると素敵な笑顔があふれていました。

琴修会本部より大正琴寄贈もあり、これを契機に大正琴の趣味を再開する方や、新たに始めたいという方もいました。活動時だけにとどまらない、今後にも繋がる活動となりました。



代表
田村 美保子さん

ボランティアは3会場で行い演奏後、聴いてくださった方々に演奏体験の時間を設け、大正琴に初めて触れる方も経験のある方にも大変喜んで頂くことができました。被災地に実際に訪れてこそ、被災地の方々と話をすることで、知ることができ、理解できることがあります。たった3日間でしたが、参加した全員が「もう一度行かせていただきたい」と心に誓いました。山田町の方々にいただいた元気は、今後の私たちの貴重な財産となるでしょう。そしてこの一期一会を大切に、日々前進していこうと心に深く刻みました。

山田町から



阿部 洋子さん

私の自宅は津波と火災に遭い、一瞬にして飲み込まれ、第一歩からの出発でした。大事にしていた色々な趣味の道具もなく嫌になる毎日でした。その時友人から大正琴寄贈の話を知りました。琴修会会長岩間様より頂き、涙が出る思いでした。あれから毎日弾いています。昔のことを思い出しながら、心安らぐ事ができました。心より感謝しております。

活動内容（団体ボランティア）

津うキャラえがおとどけ隊

参加便：第12便（8月17日～20日）

人数：15名

活動内容：ゆるキャラとあそぼう、甲冑着付け体験



2班に分かれ計6ヶ所、道の駅やまだ、仮設商店街、仮設団地集会所、福祉施設などでショー、ミニゲーム、甲冑着付け体験の活動を実施。

バス到着の大幅な遅れによる疲労や、炎天下での活動は危険とも隣り合わせではありましたが、可愛いゆるキャラたちの登場にお子さまから年配の方までたくさん人が集まってくださいました。山田町の各所でたくさん笑顔が輝き、子ども達が元気にはしゃぎ回る姿、高らかな笑い声、その光景が周囲の皆さんの空気を一気に鮮やかに染めていく様に、ボランティア冥利に尽きる活動となりました。



代表
原田 浩治さん

発災後「こんな時こそ地域を元気にするキャラクターが頑張らないと！」と思い、津市の皆さんに震災復興を考えるきっかけになるよう募金を中心とした活動を続けています。被災地でキャラクター活動が受け入れてもらえるか心配もありましたが、地元の皆さんに喜んで頂き、その「笑顔」が復興への原動力になればと感じました。本当に参加してよかったと思います。また、活動後にメンバーの熱い思いを涙しながら語り合え、仲間たちと「思い」と「時間」を共有できたことが我々の今後の活動の原動力になると実感しました。ずっとこの「思い」を持ち続けていきたいです。

山田町はまだまだ大変な状況だったのじゃ。それでも前を向いて生活している方、元気に走りまわってお子さまをみてわたくしは元気ももらったぞ。今ゆるキャラができることは、被災地の現状を知ってまちがない情報発信すること。わたくしも、東北のゆるキャラさんと今まで以上に仲良くなったり、山田町の物産ブースに必ず立ち寄っているのじゃ。山田魂じゃ！

わたくしは津市
ゆるキャラ
ゴーちゃんじゃ



合唱団「うたおに」

参加便：第13便（8月24日～27日）

人数：36名

活動内容：現地合唱団との交流、音楽会



36名の大所帯の参加で「ボラパックⅡ」では唯一2台のバスを出し運行。通常のサロン活動とは異なり、合唱団同士の交流を中心とした活動を実施。2日目の午後には合同音楽会を開催するため、他の滞在時間ではみっちり合同練習を重ねました。宿泊場所に現地の合唱団の皆さんを招待し、懇親会を行ない賑やかに親交を深めました。中央公民館で開催した音楽会には町の方もたくさん来場いただき、山田町と三重県の美しいハーモニーが会場を包み、大盛況のうちに終了しました。今後も続く交流に期待を馳せる活動の幕開けとなりました。



代表
内海 広さん

「歌う事が出来てこれほど幸せだったことはありません」念願だった山田町での演奏会が温かい拍手の中終了した。終演後の合唱団団長さんの言葉が忘れられない。震災後、三重から心を込め演奏活動に精を出したが、一度は現地へ！その願いは1年半後、やっと実現。現地に入っただけこの充足感は凍りついた。震災の爪痕は人々の心の痛みをも浮き彫りとしていた。だがお会いした現地の皆さんの懸命に歌う姿に逆に勇気付けられた。「歌う事を思い出しました」切ないその言葉に「必ずまた来ます！」と答えた。歌の力に支えられ、私達の交流が今始まった。

山田町から



コーラス 泉の会
澤田 ツマ子さん

談話室から始まったみえボラさんとの交流の中で素晴らしい夏を体験しました。3・11以後、歌うことなど考える余裕もなくなっていた私達に声をかけて下さり、三重県と山田町のジョイントコンサートが実現しました。会場の皆さんからは、多くの喜びと感動の言葉を頂き、私達まで感動し涙を流しました。改めて、歌うことの素晴らしさ、音楽の力を想いました。ありがとうございました。

活動内容（団体ボランティア）

ふれ愛スポーツクラブ

参加便：第16便（9月21日～24日）
第20便（11月9日～12日）

人数：1名

活動内容：ファミリーバドミントン体験指導

各便3ヶ所、全6ヶ所、年齢問わず楽しめるニュースポーツ「ファミリーバドミントン」の体験会を実施。体を動かせられる場所が激減した現地で思い切り遊ぶ場所を提供でき、おさまから年配の方までたくさんの方に楽しい時間を過ごしていただきました。

山田町主催のニュースポーツチャレンジ大会において、ファミリーバドミントンが正式種目として採用されるなど、活動の足跡が着実に残っています。



代表
坂井 孝二さん

息子がボランティアに参加して持ち帰った資料に「スポーツ交流」の文字を見つけ、スポーツを通じて被災地に貢献できるのならばと参加しました。私は2回参加し、沢山の子供達とPTAの役員さん、地元のスポーツ団体の方達と「ファミリーバドミントン」を通して楽しく交流することが出来ました。平成25年2月9日、山田町が企画する「ニュースポーツチャレンジ大会」では「ファミリーバドミントン」も正式種目として入りました。みえボラスタッフの方達にも大変感謝しています。

山田町から



鈴木 和子さん
陸翔くん

ファミリーバドミントン、親子で楽しませてもらいました。私は真剣モードで参加しましたが、息子が純粋に楽しみ、なおかつ真剣にスポーツに打ち込む姿を見れたのは嬉しい驚きでした。遠い三重からわざわざボランティアに来てくれたことに感謝しています。

南伊勢高等学校

参加便：第11便（8月5日～8日）

人数：25名

活動内容：茶道体験、アルバムカフェ、海岸清掃、写真洗浄

仮設団地談話室・集会所にて、茶道部によるお茶会、当センターの講習によるアルバムカフェを実施。また、現地ニーズに合わせた海岸清掃や写真洗浄の活動も行いました。

お茶会では凜とした雰囲気の中、久しぶりにお茶を楽しむ参加者や、初めてお茶を嗜んだおさまの反応に一同が和む場面もありました。アルバムカフェでは高校生との触れ合いを楽しむ山田町の方々の姿が見られました。ボラバックとして初の学校単体での運行となりましたが、学生のパワーと柔軟さが際立った活動となりました。



西 尚正 教頭

7月上旬に防災教育の一つとして参加を決めました。出発前は生徒に実感はなくどこか浮かれた様子もありましたが、現地に到着後、津波・火災による大災害の悲惨さに絶句し、自分たちにできる事を自問自答する中『災害直後は食料や衣類、暫くすると住居、整えば心の支援が必要で、こうして来てくれる事が嬉しい。』との声から生徒の様子が変わりました。仮設住宅でのお茶会やアルバムカフェ・海岸清掃、夕食後の反省会に真剣に取り組む姿を見て、今回は日頃学校では学ぶ事が難しい生徒の心に訴える学習ができたように思うと同時に、私自身も多くの事を学びました。

生徒から



2年
中村 美憂さん

被災から1年以上経った山田町に行き、まだまだ復興に時間がかかる事、まだ行方不明の方がいる事、仮設住宅での暮らし等の現状を知って辛い気持ちでいっぱいになりました。参加する前と後ではボランティアに対する考えが少し変わったように思います。今回の活動でどのような手助けができたかわかりませんが、実際に現地に行く事はとても大切だと感じました。

活動内容（団体ボランティア）

高田短期大学

参加便：第15便（9月17日～20日）

人数：15名

活動内容：ハンドマッサージ、保育支援、出張カラオケ

3班に分かれ、全9ヶ所の活動。現地ニーズに合わせたポスティング、仮設団地の集会所・談話室にてサロン活動として当センターでの講習によるハンドマッサージ、人間介護福祉学科の学生を中心に出張カラオケを実施。2日目の午前は、町内の保育施設3ヶ所に分かれ、子ども学科の学生を中心に各保育園の要望に合わせた絵本の読み聞かせ等のお遊戯活動を行いました。



学生たちの被災地の方々への想いや日ごろ習得した技を活かせるとてもありがたい機会を頂きました。私は身内が被災しているので、赴く気持ちには格別なものがありました。「被災してから1年半、歌をうたう気分にもなれなかったし、周りへのはばかりもあってね。皆さんが良い機会を作って下さったのでやっと歌うことができたよ。」と、仮設集会所に集まった被災地の皆さん

が歌ってくださった「大阪ラブソディー」が脳裏から離れません。

高田短期大学東日本大震災被災地応援プロジェクト
コーディネーター 杉谷 哲也さん



生徒から



子ども学科1年 近藤 智映さん

震災から1年半が経ち、被災地の現状を自分の目と肌で感じたくて参加しました。がれきや破壊された建物がそのまま残され震災の凄まじさを感じました。被災された方々が明るく前向きだったのがせめてもの救いです。被災地の皆さんの頑張り比べ、復興の遅さにいらだちを覚えます。支援がまだまだ不十分であるにもかかわらず、関心がどんどん薄れ、被災者の方々がますます孤立していくことが気がかりです。

三重短期大学

参加便：第17便（9月26日～29日）

人数：14名

活動内容：アルバムカフェ

2班に分かれ全4コマ、仮設団地の集会所・談話室、公共施設、学童保育にて当センターでの講習によるアルバムカフェを実施。3日目午後は、ゼミの一環として町役場総務課の方より聞き取り調査を行いました。



岩田 俊二教授



9月にゼミ生13人と山田町ボランティア活動に参加しました。ゼミ生が現地で病気になり、反対にお世話を受けてしまいました。ゼミでは、今年のテーマを津市の地震津波対策についての実証的研究としていましたので、当初から被災地でのボランティアまたは現地調査を実施する計画でありました。ボランティア活動はアルバムづくりでしたが、本当に何かのお役に立ったのか心許ないです。自分たちで活動内容を考えれば良かったです。

生徒から



生活科学科2年 川崎 美咲さん

私達の活動は「アルバム作りのお手伝い」でした。2日間という短期間で役に立てるか不安でしたが、地元の方々から「前から楽しみにしていた」「また自分の写真が持てて嬉しい」と言って頂き、参加して良かったと思えました。また、役場の方の復興計画にかかわるお話は今でも心に残っており、学んだことをゼミ研究に少しでも活かしたいと思います。

みえ災害ボランティア支援センター幹事団体

参加便：第22便（12月21日～24日）

人数：13名

活動内容：ハンドマッサージ、お正月飾り作り

みえ災害ボランティア支援センター幹事団体より参加者を募り第22便を運行。1日目は視察を兼ね、山田町の各関係機関とお話をさせていただき、2日目現地よりニーズの上がったお正月飾りとハンドマッサージの活動を2コマずつ実施。ハンドマッサージの待ち時間には、折り紙でポチ袋づくりなど、季節に合わせた物づくりを体験いただきました。



活動内容（個人ボランティア）

◆みえボラ独自ニーズ

個人ボランティアさんにサロン活動に参加いただくためのプログラムとして、実施した活動内容をご紹介します。

第1・2・3・4・8・15・16・18・22便で活動

昨年より現地からの声が多かった「マッサージ」の要望に応えられる活動として、第1便よりハンドマッサージ活動を実施しました。体のコリがほぐれると同時に、1人ずつ対面してお話できることも喜んでいただける要素の一つです。男女、年齢問わず気軽に参加でき、普段と違う顔ぶれが集まる中、久々の再会など意義のある空間づくりのできる活動でした。

NPO 法人マイサンクチュアリ様に技術指導のご協力、使用するハンドクリームは株式会社万協製薬様より「まごころハンドジェル」、御木本製薬株式会社様より「コスメティックスハンドトリートメント」を提供いただきました。

ハンド
マッ
サー
ジ



第1・3・8・16便 大西 正勝さん

ボラパックⅡの再開に躊躇無く応募しハンドマッサージ活動に参加した。「気持ち良い」と思いも寄らない言葉に、私は笑顔で応えた。それを切欠に色々な出来事を聴かせて頂き、短時間の出来だったが山田町の皆様の厳しい体験の一端を私なりに共感させて頂いた。今後も山田町の事は忘れずに、私に出来る事を出来る時に継続して行こうと思っている。参加させて頂いて有難う御座いました。



第8・9・11・17便で活動

三重県カメラ商組合様のご提案により、暑い季節のプログラムとしてアルバムカフェ活動を実施しました。集客に苦戦し活動中に呼び込み等に回ることも度々ありましたが、参加いただいた皆さんが楽しんで写真をデコレーションし、個性豊かな作品が並んだ「見せ合いっこ」では、お子さまからお年寄りまでたくさんの笑い声が響きました。特に手元に写真が残っていない方には撮影した写真を大変喜んで持って帰っていただくことができました。三重県カメラ商組合様・富士フイルム様には技術指導のご協力、活動物資のご支援をいただきました。

昨年、ボラパック19便で参加させてもらって以来、ずっと山田町のことが頭から離れませんでした。ボラパックⅡを企画していただき、本当にありがとうございました。再び山田に足を運べて感謝！山田町の方々とお喋りをしながらのアルバムカフェ、「去年とは変わったでしょう～、みんな笑顔になったから。ワハハ！」との声。かなわないな～、山田のお母さんたちには。また三重で日々修行を重ね、次の機会に備えます。

第9便 古川 真由美さん



ア
ル
バ
ム
カ
フ
ェ

第19・20・21便で活動

「家にある物」で「簡単」にできる「可愛いもの」、サロンを開いていない時にも家で続けられるプログラムとして、第19便より実施した新聞コサージュづくり。カラー新聞1枚で作成されるコサージュは、新聞で作ったとは思えないくらい美しく、山田町の皆さんにも大変喜んでいただくことができ、今後の要望もたくさん届いています。奥さんやお孫さんへのプレゼントとして作成される男性の参加者も居ました。事務局ボランティアの皆さんには、カラー新聞の提供や、型抜きなどのキット作成をお手伝いいただきました。

初の試みである新聞紙でコサージュ作りの活動を行いました。うまくコサージュを教えることができるか心配でしたが、出来上がると山田町の皆様の素敵な笑顔を見ることができ、ほっとしました。活動が円滑に安全に行えるのはみえボラスタッフの支えがあってこそであり、今まで山田町と三重を繋げてきた約1000名のみえボラの皆様のおかげだと感じることができました。私は、山田町の『みんなのえがおがみたいから』これからも山田町へ行きたいと思います。



第5・19便 岡田 鏡子さん



新
聞
コ
サ
ー
ジ
ュ



活動内容（個人ボランティア）

◆現地ニーズ

現地の声から実現した活動、現地ボランティアセンターに届いたニーズによる、活動内容をご紹介します。

●出張カラオケ

第15便で高田短期大学の団体として活動いただいた出張カラオケが好評だったため、住民の方よりニーズが上がり、第19便では個人ボランティアで活動させていただきました。カラオケ機材の操作を手伝ったり、一緒に手拍子をして盛り上がりました。あっという間に時間が過ぎてしまう活動の一つです。（公益財団法人FIDR様より、カラオケ機材をお借りしました。）



●写真洗浄・展示

平成23年度は「思いで戻し隊」として三重県内各所で行われた写真洗浄ですが、現在も引き続き現地で行われています。洗浄はもちろん、洗浄した写真の整理や、支え愛センター内の展示のお手伝いも行いました。

活動中に、写真を探しに来た方が自分の写真を見つける嬉しい場面に遭遇することもありました。



●花苗支援

第5・6・9便にて、三重県花植木振興会花卉部様よりご支援いただいた色とりどりの花苗を山田町へお届けしました。

第5便は雨天で活動できませんでしたが、第6・9便では寄贈先で花苗を植えるお手伝いをしました。活動場所によっては、がれき撤去、敷地整備から行ない、現在も綺麗に整備されています。色鮮やかな花がくれるパワーに魅せられました。



●敷地内清掃・草刈り・側溝掃除

「ボラパック」では活動の中心であった敷地内清掃は、「ボラパックⅡ」でも多数のニーズを受けました。昨年と大きく違うのは、がれきを撤去するだけでなく、野菜を作る畑や、花を植える準備のために依頼される方が多く、着実に次へのステップに繋がる活動になったことです。また、草刈りや側溝掃除は自治会の皆さんと一緒に活動でき、山田町の伝統や風習を身近に感じる機会となりました。



●海岸清掃

平成23年度は手付かずとなっていた海岸の清掃が、今年度より始まりました。まだまだガラスや大きな木片がたくさん出ます。マニュアルのない作業に、悪戦苦闘した活動でした。



●お正月飾り

現地よりみえボラへ頂いたニーズ「お正月飾り」を第22便にて活動。せっかく三重から行くのだからと、伊勢型紙を取り入れた色紙をプログラム。皆さん大変真剣に作成されました。



●ポスティング・掲示

各仮設団地を回り、チラシ等のポスティングや掲示板への掲示を行いました。時には、仕分け作業から開始したり、みえボラの次の便の活動の広報を行う時もありました。



●引越し

仮設住宅から新居への引越しのニーズが少しずつ上がってきて、みえボラでも数回お手伝いさせていただきました。住民の方の嬉しい声を聞きながら活動することができました。



参加者の傾向

※「みえ発！ボラパックⅡ」第1便～第22便の参加者データを元に作成しました。添乗スタッフは人数に含まれません。

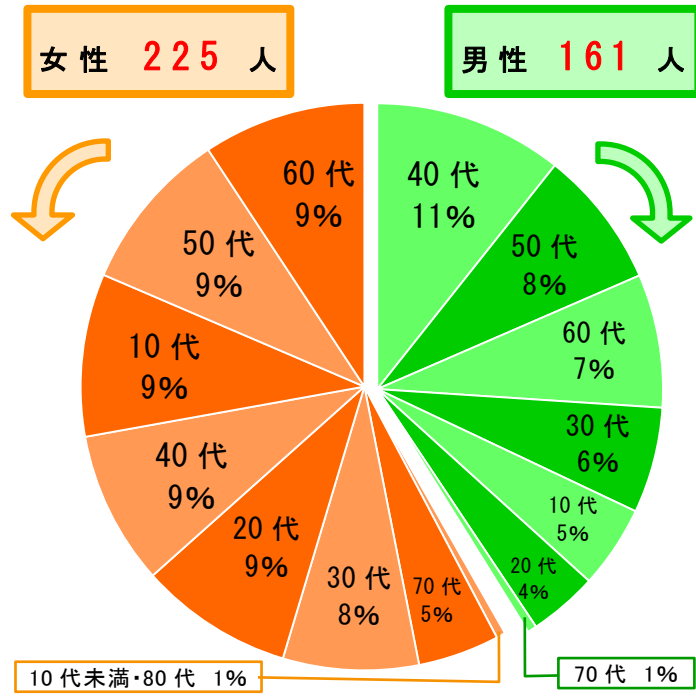
ボラパックⅡ参加人数 **386** 人

ボラパックⅠ・Ⅱ合計参加人数 **1034** 人

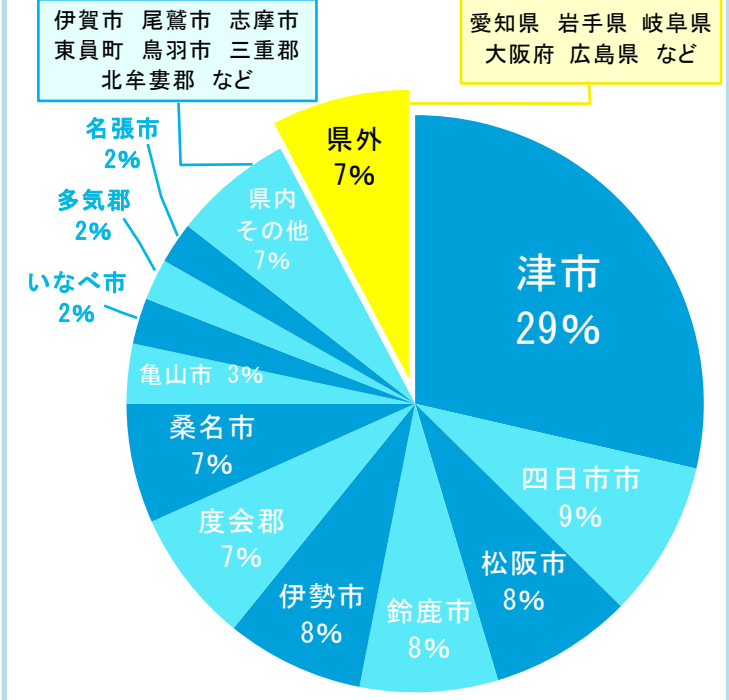
団体参加 **218** 人 個人参加 **168** 人

※ボラパックⅠ（平成23年度）ボラパックⅡ（平成24年度）合計人数

●参加者統計（性別／年代別）



●参加者統計（住所別）



ボラパックⅡに複数回参加した人数 **41** 人

最多人数の便 **第13** 便 (36人)

ボラパックからのリピーター人数 **57** 人

最少人数の便 **第18** 便 (9人)

ボラパックⅡ最多参加回数 **6** 回

最年長 **81** 歳
最年少 **9** 歳



●また必ず訪れたいくなる山田町

「ボラパック」経験者が57名も「ボラパックⅡ」に参加いただき、たくさんのリピーターの皆さんに支えられていることを改めて実感しました。「昨年参加してから1年経った山田町を見たい！再び山田町を訪れたい！」という熱い想いを馳せて参加いただいた方が多数いました。初めて参加される方、やっと再訪が叶った方、定期的に何度も参加いただいている方、それぞれに感じる想いを共有していただけることがチームみえボラの強みでもあります。

●変化するニーズに対応するための人員

「ボラパック」と「ボラパックⅡ」では活動内容が大幅に変わったこともあり、女性の方に多く参加いただき、昨年とは男女比が逆転しました。

また、年齢層が偏ることなく幅広い世代の方に参加いただいたため、それぞれの年齢に合わせた対応ができ、現地の方々も気負いせず笑顔になれる空間づくりができました。「ボラパック」では年齢制限があったため参加できなかった、小学生・中学生・高校生の活躍も目立ちました。

山田町の方のつぶやき

「ボラパックⅡ」では、昨年度の活動に比べて直接現地の方と接する機会が多くあります。参加者が現地で聴いた声を毎便書き留めてもらっています。その「つぶやき」をまとめた用紙をガイダンスで配布し、出発する前の心の準備の一つとして目を通してもらっていました。その中の一部をご紹介します。

大きく歩み出しますよ！
今年が「復興元年」。

見て感じたことや聞いたことを風化することのないよう、周りの人たちに語り伝えて、いざという時に備えてほしい。

前はきれいな海だったんですよ。今はこんなになっちゃったけど。

もう失くすものは何もないから怖いものはない。

命があっただけで十分だ、あとは何もいらぬ。

物資の供給は十分にあるので不自由はないが、こうしてふれあい訪問いただけることにとても感謝している。

仮設の住民同士でイベントの計画を立てて、声を掛け合い、仮設に住む皆が動き出すためのきっかけ作りをしている。

せつかく生き残ったのだから、これからは生きなくちゃ！

何もしてくれなくても、あんた達が来てくれるだけで涙が出る程嬉しい。ありがとう。

安置所で遺体が並ぶ中、一人一人顔を見ていった時の気持ちは忘れられない。

何のお礼も出来ない事が悔しい。

自分で笑っていかないといけないね。

「てんでんこ」(てんでバラバラに) 家族を信じることを。

仮設は抽選なので近所だった人とバラバラになり、1年たってやっと隣の人と話ができるようになった。

今年の桜がいっぱい咲いてるのを見て、やっと最近笑えるようになりました。

私は家も残っているし、家族も何ともないので被災した人たちに何とも言えない気持ち。

1年たって、かなしみは少なくならないね。

70歳以上の人は皆、仮設での死ぬのを待つだけ。

震災をきっかけに、疎遠になっていた孫と電話する機会が増えて嬉しいこともあった。

地震で亡くなった場合、遺体はひどくても残っているけど、津波の場合は遺体がどこかに行ってしまう、遺族が辛い思いをする。

皆が『東北の人は強いから』と言うけど、そうするしかない。元気なふりしてるんだよ。

自分たちは多くの人に支えられているけど、ボランティアさんは遠い道のりをかけて来てくれて、ご苦労様です。

ありがとう、またね。

自分の命を守るのは、難しいようでも簡単。

震災直後は状況に慣れてしまい、平気で遺体をまたぎ、その前でご飯を食べられるようになった。

私はポジティブに生きる。震災後、さらにその気持ちが強くなった。

荷物をとりに帰ってはだめ、戻ったら助からない。逃げること。車に乗って逃げてはだめ、車を捨てて逃げる勇気をもつこと。

福島原発も他の地域の人のため。それなのに被害を受けたのは東北の人々。何も悪いことしてないのに…。

もし必ず三重県つけかれば

この腕時計は、息子の形見で手放せない。いつもはめている。

津波では残った家が、火事で全部燃えてしまった。探しても何も残ってない。

1人暮らしなので、皆が集まって賑やかになるとうれしい。

災害にあった場合、どうしても自分主体になる。助け合う心をもっていても行動が伴わない。

ガレキ・ガレキと一言で片付けるけど、一人ひとりの家の物、財産ですよ！

自分の所に住み続けたくても怖くて住めない。でもここがいい。

頑張れと言うが、私には何を頑張ればよいのか解らない。長い間頑張って築きあげた財産の全てを一瞬の津波で失った。今迄の人生、精一杯頑張った結果がこれだよ。この上、何を頑張れば良いのか教えてほしい。

ぜんぶ何もかもなくなるって、想像できる？

山田町からの声



山田町社協
復興支え愛センター
センター長
社会福祉法人
山田町社会福祉協議会
事務局長
福土 豊さん

あの日から1年10ヶ月、今年こそ安寧な日々が送られん事を願うものではあるが、住民からのニーズは絶えることなく、復興ボランティアの受け入れを行う日々が続いています。現在、町は瓦礫も殆どなくなり、至る所に仮設店舗が立ち並び、賑わいが戻ってきたかのように思われますが、交通手段のない世帯、高齢者などは、不自由な生活を余儀なくされています。町の基幹産業は水産業で、特に生食用の殻付カキは本町の特産品として高い評価を受けていますが、震災の破壊的被害による町の経済への影響は計り知れません。早期の復興を願わずにいらませんが、漁業が、そして漁業者の方々が元気でないと町に活気が戻ってこないと信じて疑いません。被災者支援に特化した状況の中、ボランティア活動を通じて、崩壊したコミュニティを再構築し本来の地域福祉を繋げていくことに進むべき道を見出しました。これまで全国から2万8千人余りのボランティアさんの支援を頂きました。特に「みえの皆様」の笑顔や元気から生きる勇気と力を頂きました。皆様とお会いできたこと、そしてお話できたことが生き長らえている証と捉えて頂ければ幸いです。最後に、この震災で感じたことを付け加えさせていただきます。

- 1 自分の命は、自分で守る
- 2 ボランティア受け入れには、判断力、決断力を持った強いリーダーが必要である



ほっとサポート
センター 山田
竹内 美奈子さん

ほっとサポートセンター山田が開設してから、どのような交流支援を行っていけば良いのか模索していた頃、みえボラの活動と出会いました。参加者同士で楽しそうにお話しをされながら作品を作っていました。一時でもあの恐ろしい体験を忘れられる時間が必要なんだと感じました。参加されている方も「このような時間は無心になれるよ」と話されていました。みえボラには色々な活動があり、皆さんとても素敵な表情で参加されているので本当に感謝しています。いつも楽しい活動をありがとうございます。そして、皆さんに笑顔をありがとうございます。



街かどギャラリー
スタッフ
鈴木 聖一さん

みえボラさんが来て下さると聞いただけで元気が出てワクワクします。様々なジャンルの方々が山田の応援に来て下さり感謝致しております。私達が今まで見た事もなかった連鶴や、学生さんの楽しいアルバムカフェなど、参加した皆さん、子供達が足取り軽く帰って行きます。又参加できなかった方も経験できるよう残った材料をくださり、温かい心づかいに何時も頭が下がります。三重県あげて山田へのご支援ありがとうございます。



嶋田 龍策 (株)
芳賀 美恵子さん

震災から1年10ヶ月がすぎました。今だに、あの時の恐怖残っていて地震が来るたび怖いです。三重のボランティアの方々は、昨年4月～当嶋田龍策に宿泊して頂いております。10何時間もかけ、いろいろな支援に来て頂き有り難く思っております。物作りから始め大正琴のコンサート、ハンドマッサージ e t c. 私達もいろいろな事を体験させて頂きました。娘も2人出来ました。これからも宿泊の際には山田町の三重ボラのスタッフと連携をとり協力していきたいと思っております。

山田町社協復興支え愛センターの皆さん

住民に合った物作りやハンドマッサージ、集まった声を拾って新しいことを提案してくれるので、住民の意欲を高めてくれるように感じます。昨年の活動により保育園の子供達もオレンジピブスを覚えていて、みえボラの活動を待っています。また、住民からみえボラへのニーズが上がってくるので、山田町に「みえボラ」さんが浸透していることが伝わってきます。

昨年からの信頼関係もできているので、気軽にこちらのニーズもお願いできたり、融通を利かせて対応してもらえて有難く思っています。

送迎ではノリがよく圧倒される時もありましたが、賑やかで運転していて楽しかったです。若い人は盛り上げ上手で、年配の人はしっかりとっていて、いろいろな話が出来ました。(沼崎さん)



何度も来てくれる方と顔なじみになり、とてもありがたく思っています。時間が空いたとき、絵本の読み聞かせを見せてもらい感動しました。(佐藤さん)

山田第五仮設団地区長 亀山 保之さん



山田を想って長い時間バスに乗って来てくれてご苦労様です。何度も仮設を訪ねてもらって、三重の皆さんと山田の人々の人情や気質が似ているように感じ、他所の人が来ているように思えません。みえボラのような息長いぬくもりの支援はなかなか出来ないう。気持ちがしっかりと伝わって来ます。大変だけど、これからも続けて頂けたら嬉しく思います。いつもありがとうございます。

山田町まなびの時間

「みえ発！ボラパックⅡ」では、山田町での活動時間が1日半と短いため、ともすれば活動のみに追われ、山田町のことをほとんど知らないまま帰路につくこととなります。第1便で団体参加の方が地元漁師さんのお話をお聞きしたことがきっかけとなり、第2便では山田町到着時の移動時間を使って町内を視察、宿泊先に仮設団地の区長さんをお招きし、ご自身の被災体験や今の思いをお話しいただきました。こうして、第1便・第2便に参加された方のご意見やご感想をもとに、第3便より、山田町滞在中にボランティア活動だけではなく「山田町について学ぶ時間」を設けることになりました。

およそ1時間30分の「まなびの時間」では、山田町住民の方に「山田町まなびのガイド」として、町を案内していただきながら、震災当時の体験や町の被害状況・復興の様子、この町がどういうところだったのか、ご自身の思いなどを語っていただきます。

これにより、短期間の活動だけでは見えにくい様々な状況や復旧・復興の状況、課題などを知り、より親身に活動に打ち込むことができ、さらに将来の災害に備えて、自分が何をすべきか考えるきっかけを得ることができたのではないのでしょうか。

「山田町まなびの時間」プログラム ガイドの依頼・ルート設定は現地スタッフが対応。内容は便ごとに変まりました。

- | | | |
|--|--|--|
| 2便
4.28
震災時の体験と町の現状
仮設住宅団地区長 | 3便
5.12
被災体験と復興への私見
浜のミサガ山田代表 | 4便
5.26
郷土史から見る津波
山田町文化財保護審議会委員 |
| 5便
6.9
避難生活の体験談
主婦2名 | 6便
6.23
災害時の消防団活動
山田町消防団前団長 | 7便
7.7
震災時の体験（避難所の様子）
理容店経営者 |
| 8便
7.14
災害廃棄物処理の現状
災害廃棄物処理場職長 | 9便
7.28
山田町の現在
町議会議員 |  |
| 10便
8.3
震災による教育現場の変化
山田町教育委員会 | 11便
8.6
震災時の山田の状況と体験
前山田町長 | |
| 12便
8.18
震災時の体験と町の現状
仮設住宅団地区長 | 13便
8.25
震災時の山田町と保育所
保育所長 |  |
|  | 14便
9.8
被災体験と現状
学習塾経営者 | |
| | 16便
9.22
震災時の消防対応
山田町消防団前分団長 | 17便
9.27
震災後の3次産業
山田町観光協会 |
|  | 18便
10.13
鯨と海の科学館の現状見学
鯨と海の科学館 | 19便
10.27
震災時の山田町と保育所
保育所長 |
| | 20便
11.10
災害廃棄物処理の現状
災害廃棄物処理場職長 | 21便
11.24
震災時の山田の状況と体験
前山田町長 |

※22便は拡大版で設定。多くの方にご協力いただきました。

『山田町まなびガイド』の「声」



震災で家族・財産・人生設計をも奪われ途方に暮れていた時、いち早く手を差し伸べてくれたのが、みえ災害ボランティアの皆さんでした。温かい気持ちのこもった勇気ある支援活動に、何時の日からか皆様にお会いするのが楽しみになりました。被災者は時間が経つにつれて、誰かに話したい・聞いてもらいたいという思いが働きます。山田町を学ぶ活動は、その被災者をソフト面から支援できる。みえ災害ボランティアの皆さんだからこそできることと、心を打たれました。復興までの道行きは遠いですが、焦らず頑張っていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

第17・18・22便ガイド 山田町観光協会 事務局長 湊 敏さん



「まなびの時間」に町を紹介する機会を与えて頂いてありがとうございました。紹介は適切であったかどうか不安はありますが郷土史として、寛文の時代に受けた漁業技術指導、三重県との交流が古くから、現在に至るまで続いていることを皆さんに伝えたかったのであります。今また、東日本震災によって被災地となった山田町に対して、三重県の方がこのようにボランティアとして支援下さることに感謝申し上げるばかりです。ご苦労さまです。ありがとうございました。

第4便ガイド 文化財保護審議委員会委員 川端弘行さん



震災からやがて2年。一昨年の東日本大震災は、マスコミ等に取り上げられることも少なくなってきています。三重県から本町を訪れるボランティアの皆さんが「学びの時間」をとおして、私の話に目と耳を傾け、真剣に被災地の現状を理解しようとする姿勢に敬服しています。被災地に暮らす者として、ご支援いただいた全国の皆さんの心に応えるために、そして、東日本大震災を風化させないために、経験と教訓を語り継いでいかなければならないと考えております。

第13・19便ガイド 山田町第一保育所長 阿部哲雄さん



「まなびの時間」で山田祭のことを聞いていたことで、活動の中でも話に花が咲くこともありました。偶然に虎舞の頭（かしら）を作っていたらしゃる方と活動中にお会いできたことも、「まなびの時間」の効果です。

ガイドをお願いした方に、辛い経験や記憶をお話いただくことは、正直気が咎めることもありました。ですが、ガイド活動を通じて「山田町が好き」という気持ちを新たにされたり、「山田町を知ってほしい」という気持ちをボランティアに伝えることに喜びを見出してくださる方もいらっしゃいます。「忘れないでほしい」という気持ちは、きっと多くの「みえボラ」の心に届いたことでしょう。

物資支援

今年度も、多方面から多くの物資支援のお申し出をいただきました。復旧、復興が進む2年目の支援活動の中で、「物を送るだけの物資支援はしない」の指針のもと、ニーズ調査によっては時にはお断りすることもありました。活動用資材として使わせていただいたハンドクリームは、「みえ発！ボラパックⅡ」第1便から第22便までの長期にわたり、山田町のみなさんの笑顔のもととなりました。



花苗は町内の各地に可憐な花を咲かせ、春にまた花を見るために、手入れをするおかあさん達の明るい声が響きました。他にも、住民の方の要望で集めたシーツや浴衣は仮設談話室での布ぞうり作りに活用されるなど、どの物資も、ちゃんと『みんなのえがお』につながっています。

山田町ではってマップ

平成23年12月に第1号を発行した「山田町ではってマップ」も、再開店舗の紹介を中心に第6号（1号改訂版）まで号を重ね、山田町内外の方々に、広く使われるまでになりました。

第5号では仮設住宅にスポットを当てて制作。仮設住宅は通称で呼ばれることもあって、自分の住むところ以外は正確な場所がわかりにくいという声から発行にいたりしました。

少しでも見やすく、使いやすい地図になるように試行錯誤しながら制作しています。

この「山田町ではってマップ」は、広報やまだに折り込み、町内全戸に配布したほか、町外の方にも手に取っていただけるよう、道の駅やまだをはじめ、町内各所にも設置しています。

また、事務局ホームページでもPDF版を公開しています。

発行履歴

- 第2号 平成24年3月1日発行
船越・織笠・田の浜・大浦地区
- 第3号 平成24年4月1日発行
大沢・北浜・山田地区
- 第4号 平成24年4月1日発行
豊間根地区
- 第5号 平成24年6月15日発行
仮設団地・最寄バス停・緊急避難場所
- 第6号 平成24年8月1日発行
山田町中心部（第1号改訂版）

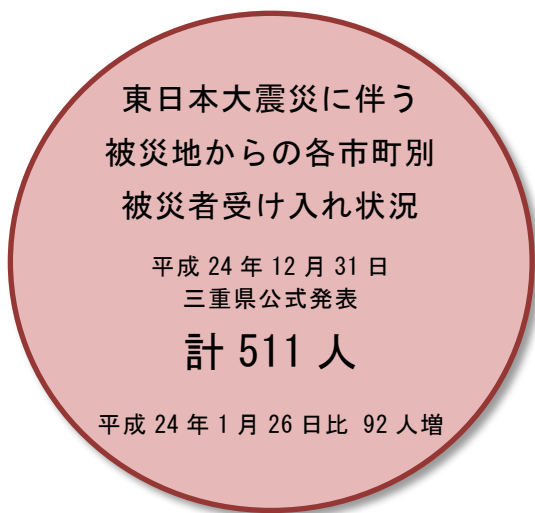
県内避難者支援 みえで仲間をつくり隊！

東日本大震災により、東北・関東から多くの方が三重県内各地に避難し生活をされています。震災から2年を過ぎた現在も避難される方は増えており、今もふるさとから遠く離れた三重での避難生活や生活再建に、不安を感じる声が絶えません。

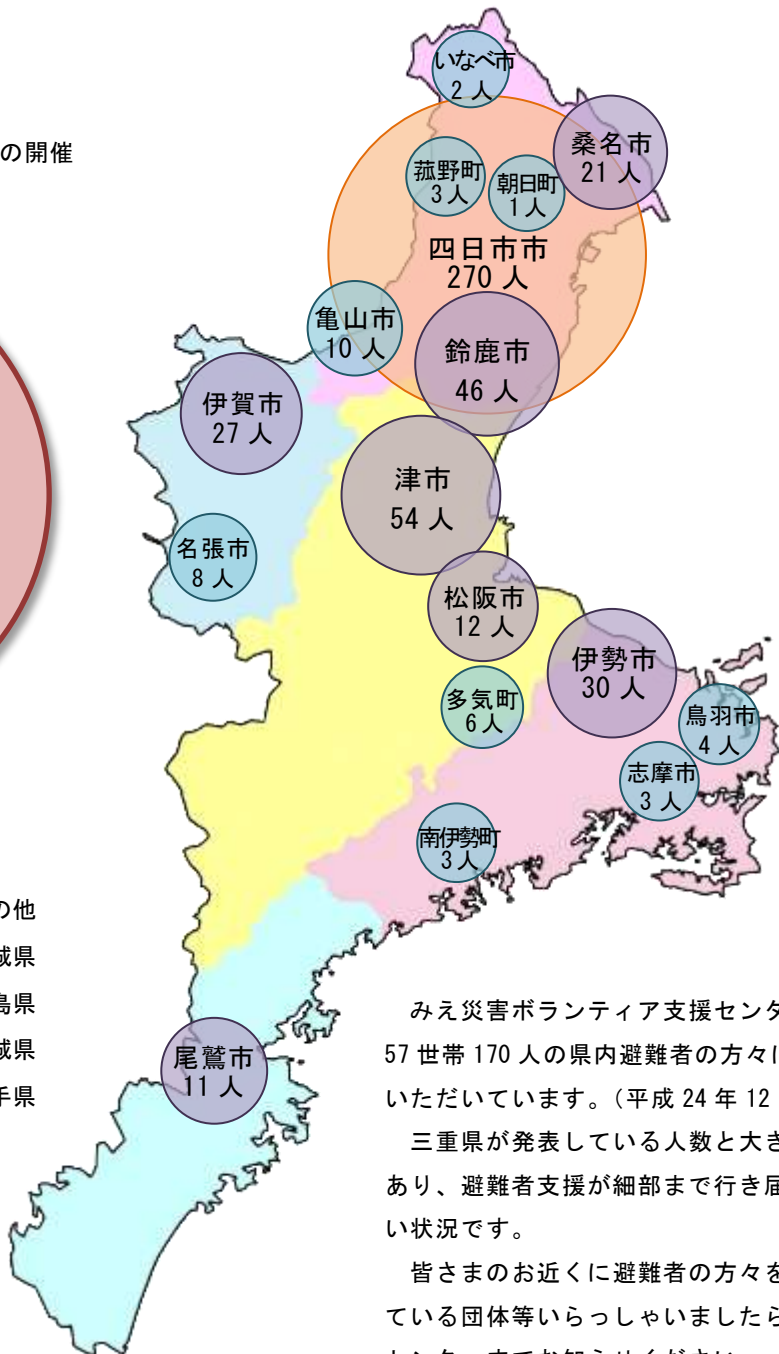
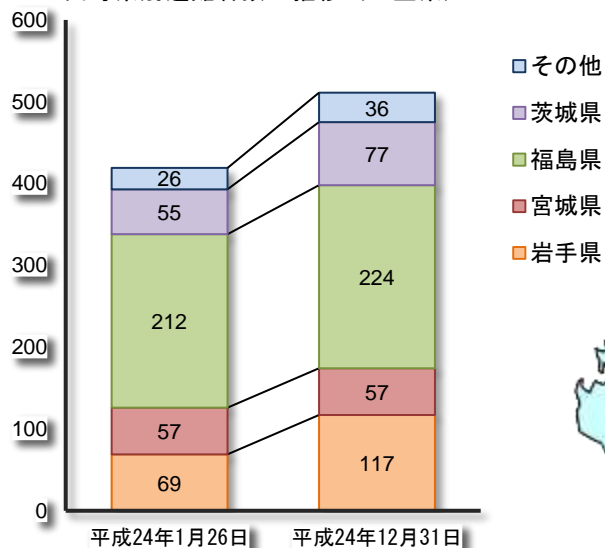
みえ災害ボランティア支援センターが、そういった県内避難者の方々の支援を実施するために、平成23年7月から活動している「みえで仲間をつくり隊！」も2年目となりました。三重県の情報提供や交流を主な活動とした平成23年度とは趣を変え、三重県での生活をより楽しんでいただく事を目的に、センタースタッフ、事務局ボランティア、企業・団体の協力を得て取り組んできました。

【主な活動内容】

- ◆ 県内情報誌「月刊 Simple」の定期的な発送
- ◆ 県内各地でイベント等を楽しむ「楽しみ隊」の開催
- ◆ ホームページ等での情報提供、活動報告



出身県別避難者数の推移（三重県）



みえ災害ボランティア支援センターには、57世帯170人の県内避難者の方々にご登録をいただいています。（平成24年12月末現在）三重県が発表している人数と大きな差異があり、避難者支援が細部まで行き届いていない状況です。

皆さまのお近くに避難者の方々の支援されている団体等いらっしゃいましたら、ぜひ当センターまでお知らせください。

○ 県内避難者支援「みえで仲間をつくり隊！」に携わって

メディアという立場から、「情報」、「影響力」という点で、少しでもご協力ができることがあれば活動に参加させていただくこととなりました。避難者の方の生活の不安を取り除けるようにとスタートすることができたのは、私共が発行する月刊誌「Simple」の毎月送付でした。センターのご支持もあり、三重県内の様々な情報をお届けすることができました。情報が情報を生み、そこで行動が生まれて交流につながる。小さなことですが、ひとつのことが大きなことへとつながるように、誌面を通して、また「みえで仲間をつくり隊！」などの活動を通して、一人でも多くの方の笑顔を見られるようにお手伝いを続けてまいりました。これからもこの輪を広げられるように頑張ります。

株式会社 ZERO 月刊 Simple 編集部 早川 篤さん



■交流イベント「楽しみ隊」

県内各地でイベントを開催し楽しんでいただく「楽しみ隊」は、開催回数を昨年度の1回から4回に増加。ゆったりとした一時を過ごしていただくものから、テーマパークで楽しんでいただくものまで、様々なプログラムを企画し開催しました。

第2回 楽しみ隊 in 希望荘
開催日 2月25日(土)
会場：湯の山温泉 希望荘
参加者数：24人



(参加者の声)

- ・今日はとてもくつろげました。他の方とも交流ができました。
- ・産地を書いてほしい。なるべく東北産はさげたい。今日はすごく楽しかった。
- ・お風呂もゆったりとして入れたし、お餅もとてもおいしくいただきました。

第3回 楽しみ隊 in 玉城
開催日 5月20日(日)
会場：アスパia玉城
参加者数：45人



(参加者の声)

- ・非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。多くの方と話をさせていただきました。
- ・いちご狩りもジャム作りも楽しかった。新しい友達も出来て、交流を通して連絡をとることが出来た。

○「楽しみ隊」活動の企画・運営に携わって

昨年11月に「楽しみ隊」の企画で、三重県内に避難された方々と一緒にテントの設営や食事の準備を行い、家庭的な雰囲気の会場での昼食は忘れられない味になりました。その1年と少し前には座談会形式の「しゃべり隊」という企画でハイハイをしていた赤ちゃんが、その「楽しみ隊」の時には会場を歩き回るようになっていて、時間の経過と、一時避難ではない形に変化している事に、今後も何か一緒に出来る事があれば関わっていきたくて考えております。



事務局ボランティア 享紺 浩明さん

第5回 楽しみ隊 in 二見
開催日 10月20日(土)
会場：二見シーパラダイス
参加者数：23人

(参加者の声)

- ・定期的に被災者の方と顔を合せて、今後のことなど少しでも話せる機会をもてるので、うれしく思っています。
- ・同じ顔のメンバーをみる事が多くなり、行事参加は楽しいです。
- ・岩手には水族館がありませんのでとても楽しく拝見させていただきました。



○「楽しみ隊」活動の企画・運営に携わって

ボラパック第1便参加以降被災地に行くこともなく、申し訳なく中途半端な気持ちでいたところ、センターから「みえで仲間をつくり隊」の活動に声をかけていただきました。中でも「楽しみ隊」は、避難されてきた方々が気がねなく楽しく一日を過ごし、三重の良さを知り、なじんでいただくことが目的でもありましたので、あれこれと企画を考えるのもとても楽しく、これまでやってきて、むしろ自分のほうが元気をもらっていた感じがします。



事務局ボランティア 高橋 昌子さん

第6回 楽しみ隊 in 関宿
開催日 11月17日(土)
会場：亀山市関宿 石垣屋
参加者数：9人



(参加者の声)

- ・また参加させて頂きたいと思います。
- ・関宿がとても楽しかったので、また来たいと思います。

○事務局ボランティアとして「みえで仲間をつくり隊！」に携わって

まず第一に伝えたいことは「ありがとうございます」の一言です。私がみえ災害ボランティア支援センターのボランティアに登録した経緯は、全てを放って逃げたという罪悪感と、東北の為に何かしなければという焦燥感からで、決してポジティブな動機ではありませんでした。ひょんなことから仲間づくり隊のメンバーに加えていただき、皆さん忙しい中夜遅くまで話し合ったり、下見や当日の準備などを行う姿を間近で見て本当に頭が下がるばかりです。おかげでイベント当日は非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。先のことはまだ何もわかりませんが、東北復興の為に微力を尽くしたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひします。



事務局ボランティア 本多 修子さん

■生活支援（コープみえ・くらしすけあいの会協働事業）

東日本大震災で三重県に避難されている方々への支援の一つとして、平成24年7月1日から平成25年1月31日までコープみえ・くらしすけあいの会のシステムを活用し、利用料等の一部を協働し支援しました。

【主な活動内容】

- ・家事（掃除・洗濯・調理など）
- ・買い物
- ・高齢者や障害をお持ちの方の簡単なお手伝い
- ・託児
- ・趣味、社会活動参加の援助
- ・病院の予約や、薬の受け取りなど
- ・外出や散歩のつきそい
- ・非営利団体やサークル、グループ等の団体育児
- ・その他、くらしすけあいの会の趣旨に反しない活動

○「困った時はお互いさま」 コープみえ・くらしすけあいの会 辻 陽子さん

「県内の避難者は、母子家庭が多いんです。」という山本センター長の言葉に、私たちでも何かお手伝いできるのではないかと思います。そして年会費や利用料をくらしすけあいの会とみえ災害ボランティア支援センターの負担として協働事業が始まりました。活動した内容は「上の子の通院時に下の子を見守りすること」「掃除と話し相手」「転居の際の庭の草取り」でした。みなさんご主人と離れて、見知らぬ土地で暮らすことへの不安や将来の心配などたくさんあると思います。「困った時はお互いさま」が合言葉のたすけあいの会が、このような形での役立ちができたことを大変うれしく思います。次年度も何らかの協力ができればと感じています。



啓 発 活 動



■ボランティアミーティング（平成 24 年 2 月 11 日）

東日本大震災に対する支援活動が 2 年目に差し掛かるにあたって、次年度の支援体制に関心のある事務局ボランティアや、ボラパック参加者および関係者を対象としたボランティアミーティングを開催しました。

みえ災害ボランティア支援センターの平成 24 年度の事業説明と、今後の支援のアイデアなどについて話し合い、変化していく被災地や被災者と県内避難者の状況に、どのように対応していけばよいか、各々の考えを共有し、次のステップに繋げる機会となりました。

■ボランティア交流会 2012（平成 24 年 12 月 2 日）

現地スタッフによる山田町の現況報告および「山田町まなびの時間」にてガイドの一人として活躍いただいた川端さんご夫妻からの発災当時のお話を交えつつ、ボラパック参加者各々が見た・感じた山田町について語り合うためのボランティア交流会を開催しました。

「みえ発！ボラパック」第 1～36 便および「みえ発！ボ



ラパックⅡ」第 1～21 便の参加者同士が、便の枠を越えて、山田町への思いを新たにす交流会となりました。



■写真パネル・各種資料貸し出し

東日本大震災の啓発活動に役立てていただくため、希望する団体・事務所等に以下の貸し出しを実施しています。

- ・発災直後やその後の山田町の様子（現地スタッフ撮影）および「みえ発！ボラパック」の活動を記録した写真パネル
- ・事務局が所有する震災関連 DVD や書籍

■講師派遣

地域や学校等から、被災地でのボランティア経験者への講演依頼があった場合、ボラパック参加者に講師を依頼し、活動経験を話していただいています。「東日本大震災」や「ボランティア」について伝え考えていただく機会となっています。

情 報 発 信

みえ災害ボランティア支援センターでは、以下の様々な媒体を使い情報発信をしています。

●ホームページ <http://mvsc.jp>

ボラパックⅡ参加者募集・活動報告、みえで仲間をつくり隊活動報告など、各種情報を掲載。他団体のイベント情報提供もしています。

●ツイッター

・事務局スタッフアカウント [mvsc_jimukyoku](#)

ボラパックⅡガイダンスや各種イベントの様子のほか、山田町を中心とした被災地の「今」の話題をリツイート。

・山田町スタッフアカウント [mvsc_yamada](#)

山田町の現地スタッフ中心に、「今」の山田の状況やボラパックⅡの活動の様子などをお届けしています。

●フェイスブック <http://www.facebook.com/mvsc0311>

ホームページおよびツイッターと連携した情報の発信。

●ニュースメール（不定期配信）

ボランティア募集、震災支援・防災関連イベントなどのお知らせをお届けしています。配信を希望される方は、下記メールアドレスへ空メールをお送りください。

mvsc_news-subscribe@yahooogroups.jp

●みえボラ新聞（不定期・現在第 10 号まで発行）

ボラパックや山田町の話題、みえで仲間をつくり隊など、各種情報を掲載した情報紙。

つながろう三重



大きな衝撃を与えた東日本大震災。多くの団体・個人が被災地や被災された方々への支援の取り組みのために懸命に奔走されてきましたが、被災の規模はとてつもなく大きく、支援を続けるためのボランティアの参加や、物的・資金的支援を得ることも難しくなってきたとの声が聞こえるようになっていました。そこで、東日本大震災支援活動を行っている三重県の団体同士で現状や課題を話し合い、これからも継続して支援活動に取り組んで行くために手を取り合おうと呼びかけたところ、複数の団体から賛同の声を得ました。そして、震災から1年の平成24年3月11日、キックオフイベントを開催し74名（22団体+個人）の参加のもと支援団体連絡会の設立を提案、全員の賛同を得て設立を宣言しました。加入団体は平成25年1月現在25団体にのびります。

みえ東日本大震災支援団体連絡会（通称：つながろう三重）は、2か月に1度程度の定例会の開催と、メーリングリストおよびフェイスブックによる情報の発信・共有をおこなっています。それぞれの団体が仕事や活動をやりくりするなかで全員が定例会にそろうことは難しくはありましたが、顔を合washお互いの活動状況を伝え合うことで、新たな活動へと結びついた事例もありました。今後はメーリングリストの活用を中心におき、引き続きつながりあい、協力し合える関係づくりを目指します。

つながろう三重は、起ち上げ時から平成25年3月11日迄の事務局をみえ災害ボランティア支援センターが担いました。

それぞれのフィールドを活かして、被災地への支援活動を行なった多くの方がそうであるように、ぼく自身も、独自の活動を続けてきた。絵本読み聞かせ、1万冊絵本フェア、保育交流ツアー等々。

何かに困っていたり、何かを必要として「つながろう三重」に参加したわけではなかった。しかし、1万冊絵本フェアでは、絵本の移送を四日市運送さんが無償で引き受けてくれて助けてもらった。それをきっかけに、他の人たちの「思い」を感じることができた。

それによって、ぼくの活動に大きな変化があるわけではないが、「思い」を共有できる人たちとのつながりがあることは、大きな安心感と、何かで協働できるかもしれないというワクワク感になっている。これがあるのとないのとは、大きな違いだ。

NPO法人 ほがらか絵本畑
三浦 伸也さん



他の地域の災害ボランティア活動支援

東日本大震災以降も、豪雨・豪雪など、国内外各地で様々な災害が起こりました。大規模な災害の発生時には、多くのボランティアが被災者・被災地の大きな力となります。それらのボランティア活動が円滑に行われるよう、様々な支援活動を行うのがみえ災害ボランティア支援センターの役割です。平成24年は東日本大震災の支援活動を継続しつつ、発災時のボランティア募集等の情報発信や、京都府宇治市豪雨で被災した地域へのボランティアバスの共催運行などを行いました。

■主な活動支援

- ・平成23年台風12号災害の復興に関する情報提供（平成23年度より継続）
- ・豪雪地でのボランティア活動注意喚起情報提供
- ・九州北部豪雨災害に関する特設ページ（ホームページ内）の開設、情報発信
- ・京都府宇治市豪雨による「みえ伊賀発!ボラパック宇治」の運行

（伊賀市社会福祉協議会と共催）



みえ災害ボランティア支援センターについて

風水害や地震の被害から復旧・復興する過程で、災害ボランティアの果たす役割はたいへん重要になっています。三重県地域防災計画には「みえ災害ボランティア支援センター」（以下「支援センター」といいます）を、市民と行政の協働で設置することが明記されています。支援センターは市町単位を目安に設置される現地の災害ボランティアセンターを県域で後方支援するために設置し、県災害対策本部や県内の関係機関、また県外のボランティアネットワークや関係機関との連携・調整や、県内外への様々な情報の受発信などの支援を行う役割を担います。

■ 支援センター設置基準

- ① 災害が発生し、県内に現地センターが設置された場合
- ② 県内に震度6弱以上の地震が発生した場合
- ③ 幹事団体が支援センターの設置を必要と認めた後に開催する臨時会（参加団体で構成）で設置決議があった場合

東日本大震災発生の日後、3月14日に支援センターをみえ県民交流センター内に設置することを決定しました。同時にセンター長を選任、ボランティアによる事務局立ち上げと先遣隊の派遣を決定しました。先遣隊は被災地、および現地災害ボランティアセンターの情報を収集するとともに、現地災害ボランティアセンターの立ち上げにかかる支援を行うこととし、資金の調達を含めた具体的な業務計画を策定していきました。そして被災された方々が笑顔を取り戻し、地域が復興するまで、息の長い支援活動を三重県から展開することを約束した「東日本大震災復興支援みえ宣言」を謳いあげた「私たちにできることを考える緊急集会・みえ」を開催した4月11日を境に、本格的に活動をスタートさせたのでした。長期的な支援活動に備えるため、ボランティアによる事務局体制を専任の雇用スタッフ体制に整えたのもその頃です。

活動の方向性を決定する幹事団体は、日本赤十字社三重県支部、社会福祉法人三重県社会福祉協議会、特定非営利活動法人みえ防災市民会議、特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター、三重県ボランティア連絡協議会、そして三重県の計6団体、まさしく官民協働の組織です。

<幹事団体4代表からのメッセージ>



皆さんのボランティア活動が被災者を勇気づけ、被災地の復興につながります。これからも力を合わせて頑張りましょう。

日本赤十字社三重県支部

支部長 野呂 昭彦



被災地の社協や行政との連携を十分に図りながら、被災された方々に寄り添った支援を続けていきたいと思えます。

社会福祉法人
三重県社会福祉協議会

会長 森下 達也



東日本大震災は、人の命の儚さと、自然界の脅威を見せつけた。理不尽だと怒りさえ覚えたが、生き残った者としての使命を感じる日々です。

特定非営利活動法人みえ
NPO ネットワークセンター

代表理事 伊井野 雄二



私たちは、ボランティアとしての被災地支援のあり方を検討しています。今後ともみなさんのご協力をお願いします。

三重県ボランティア連絡協議会

会長 泰道 詞子

※幹事団体2団体（三重県知事 鈴木英敬、および特定非営利活動法人みえ防災市民会議議長 山本康史）については、裏表紙等の挨拶にかえさせていただきました。

■スタッフ紹介



センター長 山本康史

日本と中国をまたにかけ、多忙な中でもしっかりとセンターを支える、幹事団体の長にして頼れる代表。



事務局長 若林千枝子

退職後の予定を返上し、事務局で采配をふるう。無敵の笑顔で発せられる「鶴の一声」の威力は絶大。



事務局長補佐 伊佐彰代

現体制発足前から事務局を支える重鎮。誰よりも早く電話を取る。ボラパックⅡ第19便で念願の山田町へ。

会計・経理・文書・予算管理
スタッフ労務管理・物品調達など

総務班長 番家康文

電卓片手にいつも穏やか頼れる先生。
社会情勢には熱い一面も。



総務班

情報分析・収集発信・広報活動全般
ボラパック参加者の健康管理など

情報班長 山畑直子

実は元看護師。
ネコには甘い、タスクスケジュールには厳しい。



情報班

ボラパックの運行管理・現地支援
県内避難者支援全般など

対策班長 森本佳奈

元 JOCV スリランカ風味
多少の事では動じない。
全体調整能力発揮中。



対策班



業務補助員 谷畑哲男・松岡佑美

ボラパック経験者にて行程管理はお任せ。現地班とも息ぴったり。まさかのトラブル発生にも慌てず、細やかな心配りが光る。参加者管理、現地班との調整、写真データ・名簿管理、受付業務、県内避難者支援活動、ボラパック参加者アンケートの整理など、担当業務はてんこもり。



現地班 佐藤辰也・外館こずえ

まなびの時間、ニーズ把握、活動補助、マップ作成、関係機関・他団体との連絡調整と連携、ボランティア参加者の安全管理、山田町の情報収集、現地情報発信（ツイート・HP記事）など。それぞれの人脈を駆使し、山田町内を（時には町外も）走りまわる多忙なふたり。



事務局長のつぶやき

「みえ発！ボラパックへの参加者が1,000人を超えそう」と聞いたのは、ボラパックをスタートさせてから2年目12月のことでした。初年度は約1週間、2年度は4日間、1,080キロの道のりをかけて被災地に赴き、活動に参加してくださった皆さんに心から感謝します。そして無事皆さんが帰ったその日、ふりかえりの場で聞く「想像していたのとは全く違う」「行かなきゃわからない気づきがいっぱいあった」「町の人から『みえボラさん』と声をかけてもらってうれしかった」「ボラパックの仕組みがあって参加しやすかった」「現地スタッフがいてくれたことに感謝！」等々の言葉にホッと胸をなでおろします。ひとりでも多くの方に現地を訪れてほしい。たくさん話をして、友だちをつくってきてほしい。そして山田のみなさんおひとりおひとりが、ひとときでも災害から離れて日常に戻り、笑顔になるお手伝いがしたいと願ってボラパックを送り出し続けています。

月に一度のスタッフ会議は三重と山田をスカイプでつないで全員参加で行います。入念な準備活動に始まり、今年度導入した「まなびのガイドさん」の手配や調整等々、スタッフ間の連携プレーは見事です。この体制で臨めるのは、スタッフ全員のやる気とプライドがあつてのこと、そしてそれを支えているのが三重県であり幹事団体、そしてボランティア活動支援金を寄せていただいた県民のみなさんということに思いを馳せると、三重県民としての誇りを感じずにはられません。

大規模災害で失われたものは、とてつもなく大きくて悲しい、でも得られたものがたくさんあります。このかけがえのない宝物をこれからも大切にしていきたいと思えます。

収 支 報 告

「東日本大震災」支援 収支報告書

(平成 24 年 4 月 1 日～12 月 31 日)

【収入の部】

(単位:円)

予算科目	金額	摘 要
県の負担金	29,902,000	
寄付金	929,955	110 件
参加負担金	4,975,000	ボラパックⅡ参加費(大人往復は 1.5 万円 高校生以下は 0.5 万円徴収)
その他	1,950	利息(1,431+519)
前年度繰越金	7,754,791	
合 計	43,563,696	

【支出の部】

予算科目	金額	財 源 内 訳				摘 要
		県負担金	参加負担金	寄付金	その他	
ボランティアバス事業費	11,738,817	○	○	○		ボラパックⅡ 22 便(大型バス・マイクロバス費用)、団体活動助成金等
県内避難者支援事業費	462,655			○		楽しみ隊関係諸費用、情報誌の購入・発送費用等
情報交流事業費	108,338			○		ではってマップ作成・配布、つながろう三重学習会等
その他事業費	681,572			○		諸活動に係る費用(ボランティア用駐車場費用、ガイド資料作成に係る費用等)
旅費交通費	1,542,437	○				事務局職員に係る出張旅費
消耗品費	435,989	○				事務局運営に係る諸費用(用紙・インクカートリッジ等)
印刷製本費	94,740	○				みえボラ新聞、活動報告書の印刷費等
事務機器費	14,300	○				デジタルカメラ購入費等
通信運搬費	529,495	○				事務局内電話・携帯通話料、切手、メール便等
燃料費	69,176	○				拠点地三重車両・山田町出張時レンタカー燃料代
使用料賃借料	223,506	○				銀行振込手数料、出張時のレンタカー、コピー機使用料等
給料手当	9,769,499	○				事務局職員 7 名分給料
法定福利費	1,399,189	○				労働保険料・社会保険料(事業主負担分)
合 計	27,069,713					

【ボラパックⅡ 1便あたりの経費及び参加者負担分】について



・大型バス 1 台の経費(含:高速道路料金+乗務員経費)+マイクロバス経費(まなびの時間)

* 平均 50 数万円 1 行程:2 夜行 4 日 季節・行楽シーズン等により、若干金額が異なります。

・参加者負担分(1.5 万円)について

平均乗車人数を 15 名と想定して、参加者の方々に総額のおよそ半額の 1.5 万円をご負担していただき、県の負担金からもおよそ半額を支出しています。

※なお、不足が生じた時および高校生以下の割引分については支援金で賄っています。

ご支援・ご協力いただいた企業・団体

企業・団体だけでなく、個人の方々からも、活動支援金のご寄付や物資提供、ボランティアやスタッフへの差し入れなど、たくさんのご支援・ご協力をいただきました。本来なら全ての方々のお名前をご紹介させていただくところですが、匿名の方も非常に多く、また紙面に限りもあるため、ご紹介を省略させていただきます。お一人おひとりの皆さまに、心より感謝申し上げます。

また、ここに掲載していない企業・団体につきましても、匿名や他団体を介してなど、多大なるご支援・ご協力をいただきました。重ねてお礼申し上げます。

■ ご支援、ご協力いただいた企業・団体一覧 (平成24年2月1日～12月31日 敬称略・順不同)

<活動支援金・支援物資のご支援・ご協力>

三重県花植木振興会花卉部／琴修会／桑名の千羽鶴保存会／三重県教職員組合（鈴鹿支部）／四日市運送株式会社／朧明流剣詩舞道／特定非営利活動法人めいわ市民活動サポートセンター／認定特定非営利活動法人イーパーツ／株式会社デンソー／株式会社希望荘／セントヨゼフ女子学園 8 期生同窓会／津うキャラえがおとどけ隊／亀山市商工会議所青年部／桑名市民活動センター／三重街道マラニック実行委員会／多気町あじさい茶屋実行委員会／龍昌寺／鈴鹿高等学校／鈴鹿市立神戸中学校／手づくり工房・ワイワイ／いせ市民活動フェスティバル／エービーシーサークル／シリツヨッカイチビョウインキロクイインカイ／セイケイゲカリハビリテーションガツカイミエ／セラヴィ／ハミングベア／ヒガシミュキカイコンペジッコウイインカイ／ヒャクゴギンコウオワセリョウゴルフカイ／マツサカチクノウソンセイショウネンクラブ／ミエノジョセイケンキュウカイ／ユメユメ 22

<ボラパックⅡの活動に必要な資材等のご支援・ご協力>

ふれ愛スポーツクラブ／まちかど博物館竹茗舎／三重県カメラ商組合／三重ラフター（笑い）ヨガクラブ／富士フィルム株式会社／万協製薬株式会社／御木本製薬株式会社マーケティング部／手づくり工房・ワイワイ／鈴鹿市伝統産業会館／三重県花植木振興会花卉部／特定非営利活動法人マイサンクチュアリ

<山田町での活動に関するご支援・ご協力>

山田町／山田町社会福祉協議会／山田町社協復興支え愛センター／山田町観光協会／山田町商工会／ほっとサポートセンター山田／山田町スポーツ推進委員会／山田町教育委員会／山田消防署／大沢保育園／わかき保育園／第一保育園／南小学校放課後児童クラブ／荒川小学校／大沢小学校／岩手県北自動車(株)／山田町商業事業協同組合／岩手県美容業生活衛生同業組合山田支部／龍昌寺／三心会／ケア・インターナショナルジャパン／グッドネーバーズ・ジャパン／街かどギャラリー／医療法人晃生会／社会福祉法人親和会／クローバー薬局／ホームマック山田店／山田調剤薬局／山田郵便局／道の駅やまだ／岩手銀行山田支店／北日本銀行山田支店／宮古信用金庫山田支店／山田交番／ローソン長崎店／びはん株式会社／ホームワンサトー／(株)奥村組 JV／高砂商店街／株式会社嶋田鉱泉

<県内避難者支援活動に関するご支援・ご協力>

株式会社大里畜産／株式会社希望荘／三重県立みえ夢学園高等学校／三重の輪／母子疎開支援ネットワーク「hahako」／株式会社ゼロ／社会福祉法人育心会多気天啓苑／ふるさと味工房アグリ／株式会社夫婦岩パラダイス／伊勢市役所二見支所／旅人宿石垣屋／亀山みそ焼きうどん本舗／亀山市役所関支所／深川屋／内田農園／コープみえ・くらしたすけあいの会／桑名市／朝日町／いなべ市／川越町／木曾岬町／鈴鹿市／東員町／亀山市／四日市市／津市／菟野町／松阪市／多気町／大紀町／明和町／伊賀市／大台町／名張市／伊勢市／尾鷲市／鳥羽市／紀北町／志摩市／熊野市／玉城町／御浜町／度会町／紀宝町／南伊勢町

<ボランティア活動の啓発（写真パネル展示）のご協力>

百五銀行／亀山市商工会青年部／セラヴィ／津市社会福祉協議会芸濃支部／手づくり工房・ワイワイ／南勢志摩文化創造”わ”の会／津南ヶ丘自治会／亀山市／桑名の千羽鶴を広める会／いなべ非常通信ボランティア／六把野新田六和会／みえ防災コーディネーター志摩の会／もあはぴ～more happy club～／10year サポート実行委員会／津市立千里が丘小学校／津市立一身田中学校国児分校／NPO 法人伊賀の伝丸／ハートポートみえ／伊賀市神部地区住民自治協議会／三重大学災害ボランティア支援団体 MUS-net／玉城町社会福祉協議会／いちごの会

<その他のご協力>

百五銀行／ゆうちょ銀行／株式会社グリーンズホテルグリーンパーク津／東紀州コミュニティデザイン／三重県 29 市町社会福祉協議会

被災された方々が次のステップに進むため、今私たちにできること

みえ災害ボランティア支援センター 2013年度に向けて

東日本大震災支援のためにみえ災害ボランティア支援センターが設置されて2年になります。私たちが2年間寄り添い続けた山田町は、被災した小学校の建て替えや復興住宅建築用地の整備がやっと始まるかといった状況で、多くの方々が生活し幸せを感じていた街並みは今も更地のまま、多くの商店も仮設営業、漁業関係も震災前の活気を取り戻すことができるのかといった危機感の中で懸命の取り組みをされています。仮設団地では先の見えない避難生活が続き、地域の鉄道は復旧の目処すらなく、復旧途上の道を通う学生たちも不便な通学生活をすごしています。



また、公的に把握されているだけでも500名の方が三重県内に避難されており、地元と三重の二重生活や震災のストレス等のために今でも多くの課題を抱えて生活しています。

当センターは、ともかく目に見える形で支え合う手を差し出すために現地に長期滞在して支援を行った1年目、仮設暮らし・一時避難の暮らしの中で仲間づくりが進むよう寄り添う活動を行った2年目の経験を踏まえ、3年目に入る山田町のみなさん、そして三重に避難しているみなさんと取り組む次のステップで大切なのは『当事者主体』『持続可能な活動』そして『教訓の伝承』だと考えています。

山田町のみなさんも、一時避難されているみなさんも、いずれは今の仮住まいを離れ、本当に腰を落ち着ける住まいに入る日がきます。喜ばしい次の一歩なのですが、しかしその時再び今の仮住まいで得られたご近所友達やコミュニティとの別れを経験しなければなりません。そして、本当の住まいで再度ご近所友達やコミュニティを作る、という努力を強いられるでしょう。

しかも、次の引っ越しは地域のみんながほぼ同時に経験するのではなく、復旧・復興の過程で一人ひとりバラバラに経験することになります。そんな近未来の課題を見据えると、『当事者自らが活動の主体となり』『継続可能な身の丈に合った取り組みを息長く続けること』が大切になると考えます。支援センターでは、山田町、そして三重に避難しているみなさんが自ら取り組もうとする気持ちをもてるように、そんな仲間が手を取り合えるように応援して行きたいと考えています。

また、東日本大震災で被災した方々の悲しみを癒すもうひとつの視点は『災害の教訓をそれぞれが傳承していくこと』だと思っています。これこそが「東日本大震災で被災した方々を忘れない」という言葉の本質であり私たち三重県民が取り組むべき大切な事業です。その為、東日本大震災で活動したボランティアのみなさんお一人おひとりが、その活動で得た学びをぜひ共有・発信して今後につなげて行けるよう取り組んで頂きたいと考えています。

みえ災害ボランティア支援センターでは、次のステップを見据えた『当事者主体』『持続可能な活動』『教訓の伝承』をキーワードに、2013年9月にある山田祭迄をひとつの目標にボラパック活動を続けると共に、12月末迄を目処に震災からの教訓を整理し三重県内で傳承していく取り組みを行う予定です。これらの活動を踏まえながら、息の長いささえあいの取組へと継続する形を模索していきます。

センターの活動は多くのみなさまのご支援が活動の原動力となっています。2013年度もみなさんご参加・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成25年2月19日
みえ災害ボランティア支援センター
センター長 山本康史



資 料

- * 東日本大震災 復興支援 みえ宣言
- * つながろう三重登録団体リスト
- * ボラパックガイダンス（パワーポイント）
- * ボラパックⅡ現地配布チラシ集
- * ではってマップ第5号（仮設住宅地図版）

東日本大震災 復興支援

みえ宣言

2011年3月11日14時46分。千年に一度といわれる未曾有の巨大地震発生。

地震、そして津波による破壊のすさまじさは想定を遙かに超え、そしてそれに伴う複合的な被害。想像を絶する惨状を伝え聞きながら、私たちは茫然とするばかりでした。すぐにでも被災された方々のもとへ応援に駆けつけたいと思っても、それすらままならない現実。私たちは無力感、そして焦燥感の中で、それぞれが「できること」を考えました。

そして今、1ヶ月を経て、自衛隊や警察、消防、海上保安庁、ライフライン企業、土木関係者等の絶え間ない努力や海外からの様々な支援により、被災地域の生活基盤は一步步復旧へと進んでいます。被災地域の皆さんの努力やいち早く被災地で活動された社会福祉協議会、NPO・NGO等支援組織の尽力により、復興に向けた取り組みが始まりつつあります。

震災。津波。被災後の生活。近い将来、東海・東南海・南海地震が連動して被害を受けると予測されている三重県にとって、とても他人事ではありません。

三重県民の皆さん、茫然自失の時は過ぎました。無事であった私たちにはできることがあるはず。被害を受けた方々に寄り添い、復旧・復興に向け、ともに歩み出す時が来たのです。

これから始まる長い復興への道。途中で息切れしてしまわぬよう、悲しみを乗り越え前に進めるよう、一人ひとりができる、さまざまな取り組みを結集して、被災された方々や被災地域を支えていきましょう。

私たちは、被災された方々が笑顔を取り戻し地域が復興するまで、息の長い支援活動を三重から展開することを宣言します。

みんなのえがおがみたいから！ 今、三重から。

2011年4月11日(東日本大震災から1ヶ月の日に)

「ほっとけやん・東日本」

代表発起人

三重県知事	野呂 昭彦 (当時)
三重大学長	内田 淳正
三重県商工会議所連合会長	竹林 武一
三重県商工会連合会長	藤田 正美
三重県共同募金会長	井村 正勝
みえ災害ボランティア支援センター長	山本 康史

みえ東日本大震災支援団体連絡会「つながろう三重」登録団体一覧（平成25年1月末現在）

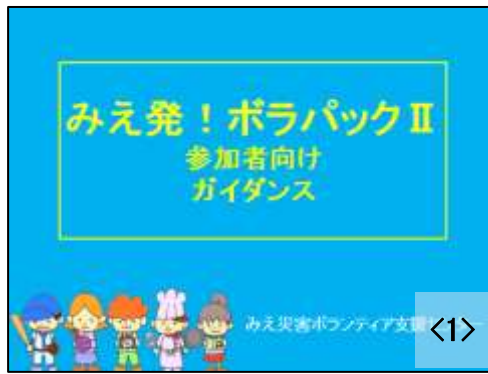
No.	団体名	代表者名	ブログ・ホームページ	活動地域
1	NPO法人ほがらか絵本畑	三浦 伸也	http://www.bookdoctor.jp/	陸前高田市
2	よりそいホットライン 地域センターみえ	徳丸 雅員	http://279338.jp/	全国
3	ビープロジェクトジャパン	遠藤 利生口担当責任者)	http://blogs.yahoo.co.jp/risebike2000	宮城県亘理町
4	日本労働組合総連合会三重県連合会	(会長) 土森 弘和	http://www.jtuc-renngo.jp/mie/	三重県全域
5	四日市運送株式会社口あすなろ応援便)	樋口 博也	http://www.asunaroshien.net/	岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市 宮城県石巻市、気仙沼市、亘理町
6	国際支援NGOあい	山原 博之		三重県内
7	防災一座	松野 博		三重県北勢地域、三泗地区 宮城県仙台市、女川町
8	母子疎開支援ネットワーク「hahako」 支援ねっと@みえきた	木田 裕子	http://hahako-net.jimdo.com/	国内、国外 四日市、菰野、三重県北勢
9	住友電装株式会社	平田 晃 (担当責任者)	http://www.sws.co.jp	三重県、東北地方
10	三重執鬼	寺田 忍	http://www.toruki.co.jp/口	三重県内及び東北地方
11	生活協同組合コープみえ	倉澤 晴則	www.coop-mie.jp/	三重県全域
12	亀山市ボランティア連絡協議会	明石 澄子	http://www.ngp2011.com/	亀山市、三重県
13	NGP	南川 勤		
14	東紀州コミュニケーションデザイン	端無 徹也(事務局長)		三重県、全国
15	はあとふるみゆき		www.hunatsu.com/miyuki/home.htm	松阪市
16	伊賀市災害ボランティアセンター(予定)	(連絡先) 中村 伊英	www.hanzou.or.jp/dvsc/	伊賀
17	三重・福島キャンプと滞在ネットワーク (おいでふくしまみえ)	高山 博美	http://web.me.com/tee3.miefukushima/	津市、三重県内、福島
18	サーカスプロジェクト	稲垣 智美 (共同代表)	http://blog.canpan.info/circusproject/	三重県、奈良県
19	名張市社会福祉協議会	山本 順仁	http://www.nabarishakyo.jp	名張市
20	三重大学災害ボランティア支援団体MUS-net	片山 誠一		三重大学を拠点として
21	三重災害支援研究会	西出 りつ子	http://www.medic.mie-u.ac.jp/mssk/	三重県
22	特定非営利活動法人みえ防災市民会議	山本 康史	http://www.v-bosaimie.jp/mcdp/	三重県内 (講演等は県外でも活動)
23	みえ災害ボランティア支援センター	山本 康史	http://mvsc.jp	三重県内、岩手県山田町
24	株式会社ゼロ (月刊Simple編集部)	松山 泰久 (担当: 早川 篤)	http://www.z-simple.com	主に四日市から志摩までのエリア
25	三重の輪	上山 隆史	http://ameblo.jp/morehappyclub/	四日市市

※各団体の活動概要、直近の活動状況は、各団体のホームページ等でご確認ください。

■ボラパックⅡ事前ガイダンス（パワーポイント）

事前ガイダンスは、パワーポイントを使用したオリエンテーションを中心に進めています。

平成23年度は安全衛生、平成24年度は被災された方々との接し方に重点をおいた内容となりました。また、団体・個人、便ごとに内容を更新しながら行っています。



みえ発！ボラパック

- 「みえ発！ボラパック」とは、
 - 「みえ」から被災地を支援するために「発」する
 - 「ボランティア」のための工夫が詰まった
 - 「パッケージ」企画
 - …の事です。
- 単に交通手段を提供するだけでなく、
 - 事前のガイダンス
 - 参加者のコーディネート
 - 現地での円滑な活動を支える後方支援センターなど様々な形でボランティア活動を支援しています。

岩手県山田町の概要と被害状況

- 被災前の山田町の状況
- 被害状況と復旧状況
 - 資料(山田町ってどんなところ)を参照

破壊された堤防

発災直後とその後の山田町

現在の山田町 (平成24年11月)

発災直後の山田町 (平成23年4月初旬)

みえ発！ボラパック(前年度)

- 運営支援ボランティア
- がれき撤去
- 保育園の補助
- 絵本の読み聞かせ
- 避難所の清掃
- 避難所の仮設風呂清掃
- 物資の仕分け・搬入
- 仮設住宅へのポストイングなど

みえ発！ボラパックⅡ(今年度)

これまでのノウハウを活かしつつ…

- 個人ボランティア派遣
 - ・現地のニーズで活動
 - ・事前に研修(ハンドマッサージ等)を受けて活動
 - ・同乗する団体・グループの活動補助
- 団体ボランティア派遣
 - ・文化や運動、教養を通じて被災地の復興に息長く寄り添う

活動内容 (例:個人)

- ◆現地で被災者のニーズに応じた活動
- 写真洗浄
 - 写真のデジタル化
- 引越しの手伝い
- ポストイング
- 側溝の掃除
- 畑の再建

※活動内容は現地の状況によって変わることもあります

活動内容 (例:個人)

- ◆事前に研修を受けての活動
- ハンドマッサージ
- アルバムカフェ
- 新聞コサージュ作り
- お正月飾り作り

活動内容 (例:団体)

- ・編み物教室
- ・連鶴教室
- ・ゆるキャラ交流
- ・手芸教室
- ・笑いヨガ
- ・音楽(合唱)交流

※その他、「将棋教室」「スポーツ少年団同士の交流試合」など、スクールのテーマをバラエティーに富んだものすることで、幅広い対象者に向けての支援とする

活動場所(例)

○広さ一間5.1m ²	○広さ一間5.4m×奥行4.5m
○座席数約20席	○12脚ハイバック椅子
○机テーブル(足付)	○机テーブル2台・背テーブル1台
○トイレ・洗面あり	○トイレ隣接換気扇・使用可
○湯・冷・ガス・水道使用可	○お茶・コーヒー・お菓子持ち込み可

ボランティアセンターとは

- ・市町村の社会福祉協議会、ボランティア団体などが地域の諸団体と協力して設置
- ・ボランティアセンター(VC)の役割
 - ・ボランティアの受入れ
 - ・地域のボランティアニーズの収集
 - ・ボランティアの行き先、活動内容の調整
 - ・その他、安全衛生管理・作業用具の貸出しなど
- ・運営方法・ルールは地域性(設置の経緯・活動内容)などにより異なる…**違いがあって当たり前**

山田町社協復興支援愛センター

- 平成23年12月「山田町災害ボランティアセンター」より名称変更
- 山田町社会福祉協議会が運営し、東日本大震災で被災した町民へ様々な支援を行っている

現地で取り組む活動

みえ発！ボラパックⅡの参加者は現地で

「チーム(みえボラ)」

として、リーダー・サブリーダーを中心に活動します。

※みえ災害ボランティア支援センターのスタッフが現地をサポートさせていただきます

チームの役割

- ・リーダー・サブリーダー
 - ①総括(チーム作り、ミーティングの進行、みえスタッフ・現地ボラセンとの連絡など)
 - ②報告(活動報告書の作成など)
 - ③安全衛生管理(チームの安全衛生の啓発(声かけ)ケガや病気の発生時の報告書作成など)

※参加者の中から、事務局のほうでリーダー・サブリーダーを決めさせていただきます。該当者には事務局より出発日前日までにお知らせします

チームの役割

記録係(カメラ係)

チームの活動記録として、写真を撮影する

※被災された方々に対し最大限の配慮が必要

※記録写真はみえポータルで管理し、必要な方にデータをお渡します

活動リーダー

現場活動の際のリーダー(活動のとりまとめ、安全管理)

役割のある方だけに頼らず、チーム内で助け合い **<15>**

活動準備 ～被災地に行く前に～

(1) 日程 ○月 ×日(金)～ △日(月)

(2) 集合場所・時間 (※時間厳守)

ホテルグリーンパーク津 16:30 集合

(3) 集合場所までの交通手段

駐車場トラブルに関する責任は負いかねます。

公共交通機関または送迎にてお越しください **<16>**

活動準備 ～被災地に行く前に～

(4) 参加(交通)費用 (バス乗車時にお支払いいただきます)
往復15,000円(片道のみ利用者は7,500円)

(5) その他費用

- ・往復や滞在の食費代
- ・宿泊代
- ・帰路の入浴(500円)・食費代

(6) ボランティア保険

- ・天災型に必ず加入してください

(7) 被災地でのボランティア活動に参加するには周囲の理解も大切です。 **<17>**

活動準備 ～被災地に行く前に～

(8) 携行品 → しおり参照

・荷物は1度に持って歩ける量に

(荷物で人の手を煩わせないの自己完結の形)

・現地の状況を想定した準備を

(気温、緊急時の避難に備える、
宿泊場所の設備を把握する)

・滞在中、現金をはじめ貴重品類は各自で管理をお願いします **<18>**

宿泊場所 ※民宿・無料宿泊所選択可



嶋田鉱泉 ニュー嶋田荘

(住所) 岩手県下閉伊郡山田町金町4-72-1

◆宿泊費(1泊2食付) ー 約36,000円

※宿泊人数によっては別の民宿になる場合があります



かわいキャンプ

(住所) 岩手県宮古市川井1-62-3

◆宿泊費 ー 無料

◆交通費 ー 約1,500円

◆食事 ー 各自準備

◆宿泊 ー 寝袋等を各自準備 **<19>**

注意事項

(1) 被災地の写真撮影は禁止です。

(2) 被災地での活動期間中、お酒は禁止です。

(3) 煙草は活動中は吸わないでください。

休憩中に指定場所で吸うようお願いいたします。 **<20>**

体調管理をしっかりと

(1) 自分の体調を見極めましょう。睡眠時間や食飲、
持病や血圧にも留意し、不調がなと思った時点で
活動をやめる勇気を持ちましょう。

(2) 飲み物も十分に用意し、こまめにとります。
きちんとトイレに行くのも大切です。

(3) 食中毒にならないよう、お弁当類は時間をあかさず
に食べきりましょう。 **<21>**

体調管理をしっかりと

(4) 小さなケガでも場合によっては**破傷風感染の危険**
があるので、必ずリーダーに報告しましょう。

(5) 夜はしっかりと寝て、明日も元気に起きましょう。

(6) 被災地における不安や後傷などは、ミーティングで
仲間と共有しましょう。

※帰ってきてからもモヤモヤが続くようなら専門家
も活用しましょう。 **<22>**

非常時に備える

滞在中、大きな余震や津波が来る可能性が全くない
とは言いきれません。

(1) 現地での避難場所・避難経路は常に確認し
ましょう。

(2) 被災地における緊急連絡先、連絡網を事前
確認しておきましょう。

(3) 懐中電灯や救急セット、保存の利く非常食を
持参しましょう。 **<23>**

被災地でのボランティアの大原則

(1) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボラン
ティアはそれをサポートする存在であるということ
を忘れないように心がけましょう。

(2) ボランティアは自己責任・自己完結が原則です。
被災された方・被災地に負担をかけないように
しましょう。

(3) 単独での行動は避けるようにしましょう。 **<24>**

被災された方と接するうえで 気を付けていただきたいこと

- ◆ 話を横取りしない
- ◆ 相手の話に反論、批判、否定しない
- ◆ 安易な慰め(元気づけ)はしない
- ◆ 先入観を持たない
- ◆ 相手の話を自己流に解釈しない

被災された方の立場をできるだけ理解し、
判断を押しつけるようなことは避けましょう **<25>**

山田町・まなびの時間

「山田町・まなびの時間」とは?

現地の方をガイドに迎え、山田町を案内いただきながら、
山田町のこと、震災時の体験などのお話を学びます。



- 各便でお迎えするガイドさんにより、内容・コース等は異なります。
- 被災体験のあるガイドさん・バス運転手さんにも、十分な配慮を待ちましょう。
- 観光ではありません **<26>**

現地スタッフ紹介

山田町出身のみえ災害ボランティア支援センターの現地スタッフです。

現地で皆さまの活動のサポートをさせていただきます。



佐藤 辰也さん



外館(たけび) こそえさん **<27>**

情報発信

ホームページ(<http://mvsc.jp/>)以外にも

○ニュースメール

○Twitter

(みえ事務局Twitter) @mvsc_jimukyoku

(山田町現地Twitter) @mvsc_yamada

○Facebook

による情報発信をしています。 **<28>**

みえ災害ボランティア支援センター

・みえ災害ボランティア支援センターとは、

- ・以下団体が幹事団体となり、三重県内外での災害発生時に災害ボランティア活動を支援する活動を行う、官民協働で運営される組織です。

- ・特定非営利活動法人みえ防災市民会連
- ・特定非営利活動法人みえの心ネットワークセンター
- ・三重県ボランティア連絡協議会
- ・社会福祉法人三重県社会福祉協議会
- ・日本赤十字社三重県支部
- ・三重県(山田町・志摩市・亀岡市、地味町・津町、美郷町・新牟礼町)

・東日本大震災発生を機に、2011年3月14日に設置
支援活動を開始しました。 **<29>**

※このパワーポイントは一例です。内容は便ごとに変わります。

「おまかせ」の「おまかせ」～
専任スタッフが丁寧なサポート
で、おまかせの時間を過ごしてください。

「おまかせ」の「おまかせ」
の「おまかせ」の「おまかせ」

新聞紙でコサージュ作り

※季節が見えるよう、メダカなどのご用意をお願いします※

〇月〇日(〇) 〇:〇〇～〇:〇〇

会場 〇〇〇〇〇〇〇〇

お問い合わせ 〇〇〇〇〇〇〇〇



手芸 新聞紙でコサージュづくり

大正琴 ミニコンサート

※無料体験あります

〇月〇日(〇) 午後〇時半～〇時

於 〇〇〇〇〇〇〇〇

みなさまお誘いあわせて、お気軽におこしくください

主催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇



交流・体験 大正琴ミニコンサート

ふしぎな折り鶴

連鶴を折りませんか？

写真中央の「連鶴(山いもせやま)」と一緒に折りませんか？

連鶴(れんづる)とは……
1枚の紙から、何回もつなげた鶴を折る折り紙です。
200年以上の歴史があり、「鳥名の千羽鶴」とも呼ばれて
昭和15年、三重県鳥名町の御坊文化財館に指定されました。

日時 〇月〇日(〇) 〇:〇〇～〇:〇〇

場所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

定員 20名 (材料がなくなり次第、終了となります)

※ ※ 参加費は無料です ※ ※

お茶っこを用意してお待ちしています
みなさまお誘いあわせておこしくください

主催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-226-6916



手芸 連鶴

☆ 剣詩舞道ふれあい公演 ☆

入場・体験無料！

日時 〇月〇日(〇) 〇:〇〇～〇:〇〇

場所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

対象 どなたでも大丈夫です。

服装 動きやすい格好。足袋もしくは靴下。

剣詩舞とは……
詩吟(漢詩に節をつけて詠う)に合わせて刀を用いて舞うのを「剣舞」、舞扇を用いて舞うのを「詩舞」と言います。
詩吟に込められた、意味や情景を表現する事は、健康的にも精神的にも良い伝統芸能です。

説明 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

主催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-226-6916



交流・体験 剣詩舞道公演

笑いのパワーが奇跡をおこす！！

いつでも どこでも
どなたでも！
笑うだけ、の
エクササイズ

「笑いヨガ」体験会

日時 〇月〇日(〇) 〇:〇〇～〇:〇〇

場所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 「無料」

最近、大声で笑っていますか？
笑うことで気分がよくなり、元気になります。
「笑いヨガ」で、一緒に心身をリフレッシュしましょう！

主催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (笑い) ヨガクラブ

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-226-6916



交流・体験 笑いヨガ

♪ みんなで「ひな飾り」を作りましょう♪

手づくりエッセイ ワーイワイ 手芸教室

〇月〇日(〇) 〇:〇〇～〇:〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

※参加は無料です
※材料に限りがあります

〇・ ひな飾り、お花壇にご参加ください。 〇

主催 手づくりエッセイ ワーイワイ

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-226-6916



手芸 ひな飾りづくり

ゆるキャラとあそぼう

ミニゲーム・お菓子の配布
などなど

たのしいイベントがたくさんあるよ！

〇月〇日(〇曜日)

午前 〇時から 〇時まで

〇〇〇〇〇〇〇〇 で まってるよ！

ゆるキャラ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

主催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-226-6916



交流 キャラクター

手づくりエッセイ・ワーイワイの
手芸教室

「落がらばい 集まってくるよ」

※今回は主に
クリスマスバージョンの制作になります

日時 〇月〇日(〇曜日) 〇:〇〇～〇:〇〇

場所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

お茶っこして、おしゃべりして、ワーイワイと楽しみたい！
たくさん飾りのほかにも、シェアタイルも作れます。

みなさま、お誘いあわせておこしくください。

主催 手づくりエッセイ・ワーイワイ

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-226-6916



手芸 ふくろう飾りづくり

写真であそぼう
写真立てづくり

ポラロイドカメラでその場で撮影
あなたのセンスでデコレーション
世界にひとつの写真立てを
つくってみませんか？

お手持ちの写真もつかっても
OKです！

日時・場所
〇月〇日(〇) 〇:〇〇～〇:〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

※ 参加は無料です ※

お茶っこも用意してお待ちしています
みなさまお誘いあわせておこしくください

主催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

共催 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

電話 〇〇〇-226-6916



手芸 アルバムカフェ

豊間根・宮古方面 ↑

柳沢・関谷地区

番号	団地名 称 (通 称)	最寄バス停
5	山田仮設 (関谷林業担い手センター付近)	北浜口
6	山田第2仮設 (関口農業担い手センター付近)	関口
7	山田第3仮設 (県立山田病院付近)	柳沢
8	山田第4仮設 (山田下水道処理場予定地)	関谷
9	山田第5仮設 (上徳漁具店付近)	下関口
10	山田第6仮設 (旧不動生コン付近Ⅰ)	北浜口
11	山田第7仮設 (旧不動生コン付近Ⅱ)	北浜口
12	山田第8仮設 (県北バス北浜口付近)	北浜口
13	山田第10仮設 (平安荘跡地)	児童館前
14	山田第11仮設 (関口児童の館園庭)	児童館前

凡 例

- 仮設団地
- 避難所
- 目 標 物
- ♀ バス 停
- ✕ 通行止め

豊間根地区、
拡大図は反対側へ

番号	団地名 称 (通 称)	最寄バス停
1	大沢仮設 (浜川目コミュニティセンター付近)	浜川目
2	大沢第2仮設 (大沢小学校校庭)	大沢川向
3	大沢第3仮設 (山谷コミュニティセンター付近)	山谷
4	大沢第4仮設 (大和水産倉庫付近)	下条

大浦地区

番号	団地名 称 (通 称)	最寄バス停
30	船越第2仮設 (大浦小学校付近Ⅰ)	小谷鳥口 (大浦小前)
31	船越第7仮設 (大浦小学校付近Ⅱ)	小谷鳥口
32	大浦仮設 (大浦通村センター)	大浦保育園

山田町ではってマップ

第5号 仮設団地版 (大沢～船越地区)

2012年6月15日発行 みえ災害ボランティア支援センター

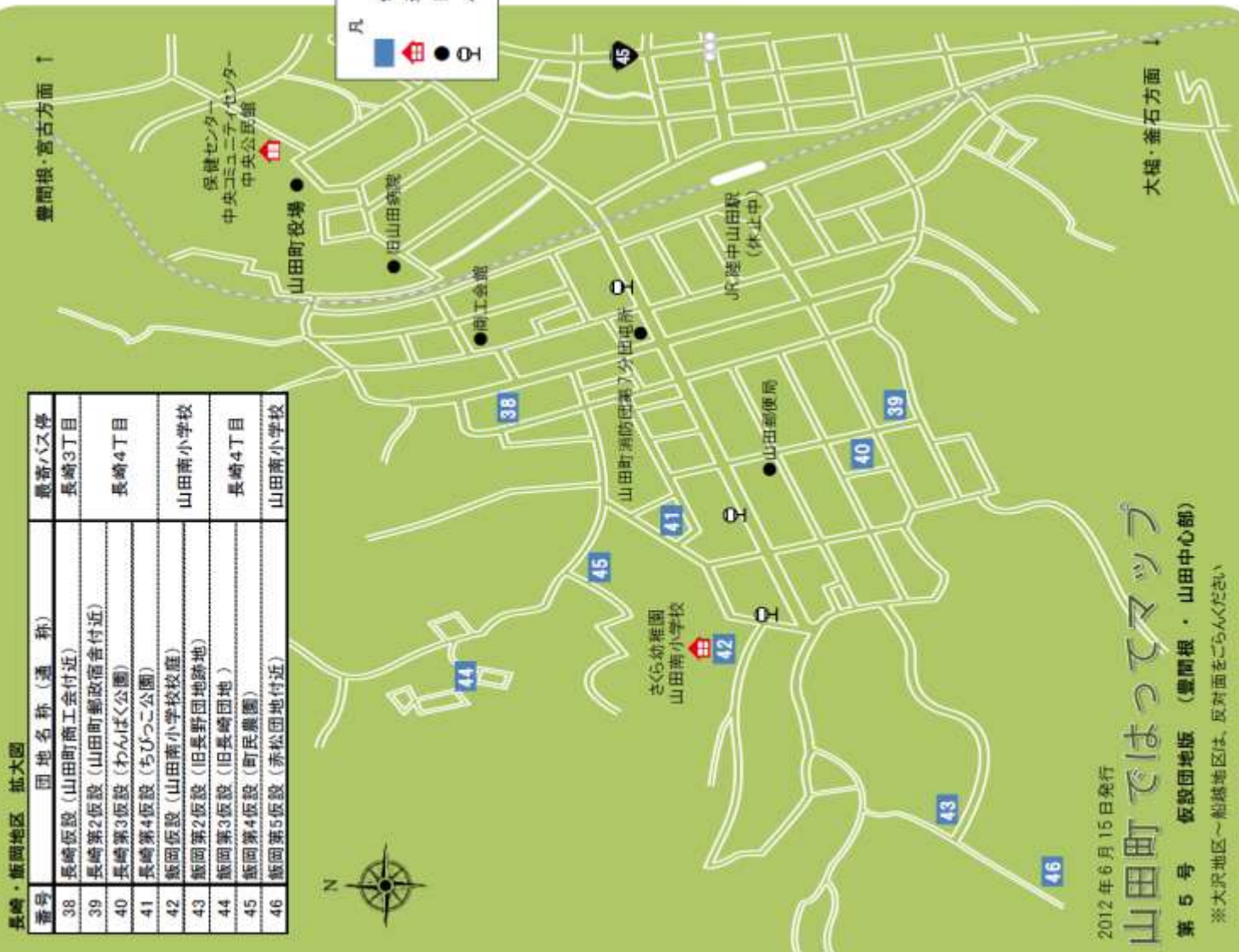


番号	団地名 称 (通 称)	最寄バス停
15	織立仮設 (町民グラウンド)	細浦
16	織立第2仮設 (織立小学校校庭)	織立大橋
17	織立第3仮設 (猿神農業担い手センター付近Ⅰ)	館神
18	織立第4仮設 (猿神農業担い手センター付近Ⅱ)	館神
19	織立第5仮設 (猿神バス停付近)	山田高校前
20	織立第6仮設 (県立山田高校付近)	山田高校前
21	織立第7仮設 (希望ヶ丘 向かい)	希望ヶ丘団地前
22	織立第8仮設 (阿部組 山田生コン)	希望ヶ丘団地前

番号	団地名 称 (通 称)	最寄バス停
23	船越仮設 (家族旅行村多目的広場)	鯨科学館前
24	船越第3仮設 (青少年の家前林間駐車場)	青少年の家
25	船越第4仮設 (旧平安荘跡地)	長林
26	船越第5仮設 (家族旅行村芝生広場)	浦の浜半崎
27	船越第6仮設 (旧タブの木荘跡地)	旧タブの木荘
28	船越第8仮設 (浦の浜 船越公園向かい)	鯨科学館前
29	船越第10仮設 (やまびこ公園)	長林

長崎・飯岡地区 拡大図

番号	団地名 称 (通 称)	最寄バス停
38	長崎仮設 (山田町商工会付近)	長崎3丁目
39	長崎第2仮設 (山田町郵政倉付近)	長崎4丁目
40	長崎第3仮設 (わんぱく公園)	山田南小学校
41	長崎第4仮設 (ちびっこ公園)	長崎4丁目
42	飯岡仮設 (山田南小学校校庭)	山田南小学校
43	飯岡第2仮設 (旧長野団地跡地)	
44	飯岡第3仮設 (旧長崎団地)	
45	飯岡第4仮設 (町民農園)	
46	飯岡第5仮設 (赤松団地付近)	

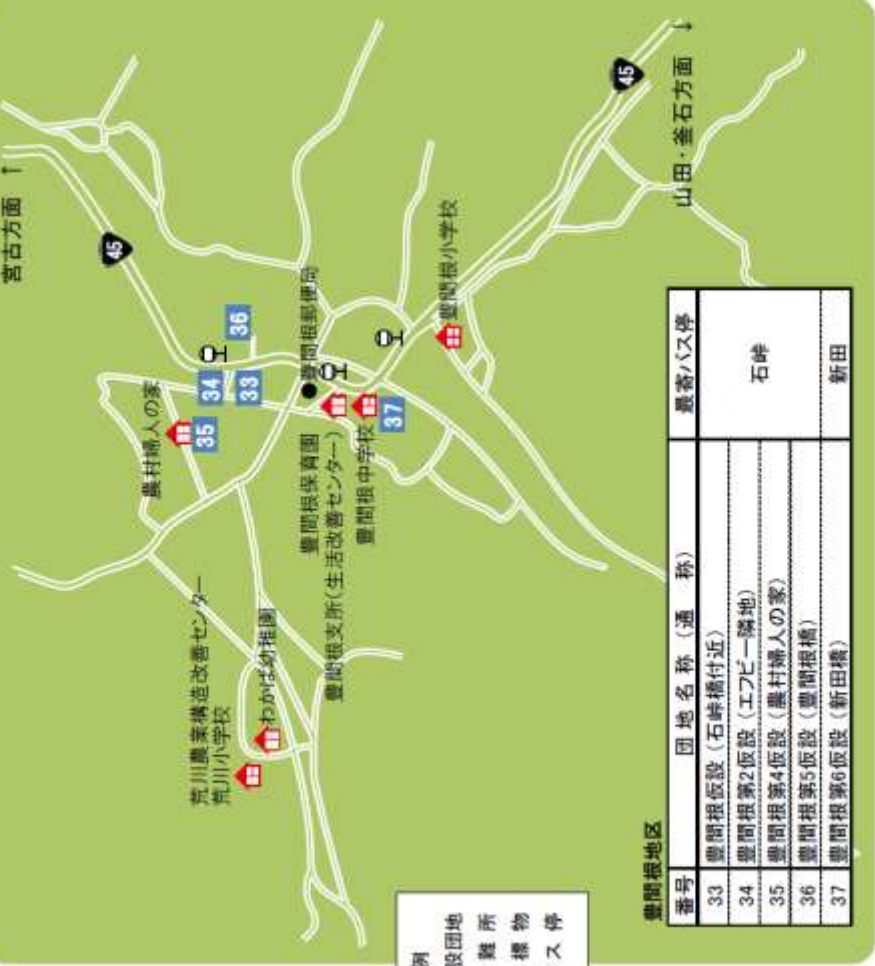


2012年6月15日発行

山田町ではってマップ

第5号 仮設団地版 (豊間根・山田中心部)

※大沢地区～船越地区は、反対面をごらんください



豊間根地区

番号	団地名 称 (通 称)	最寄バス停
33	豊間根仮設 (石崎橋付近)	石崎
34	豊間根第2仮設 (エフビ一隣地)	
35	豊間根第4仮設 (農村婦人の家)	
36	豊間根第5仮設 (豊間根橋)	
37	豊間根第6仮設 (新田橋)	新田

凡 例

- 仮設団地 (Red house icon)
- 避難所 (Red house icon with blue roof)
- 目 標 物 (Black dot icon)
- バス 停 (Blue square icon)

「ほっとサポートセンター」は、各仮設の集会所等に設置され、生活支援専門員が常駐して生活支援の相談や、地域のコミュニケーションのお手伝いをしています。

ほっとサポートセンター お問い合わせ先
ほっとサポートセンター-山田 ☎ 080-1652-9239

ほっと豊間根	33	080-2827-8362
ほっと大沢	1	080-1652-7446
ほっとまぎど	8	080-2827-5766
ほっと町民グラウンド	15	080-1653-0122
ほっと嶺神	18	080-2827-8051
ほっと船越	28	080-2827-4862

【協力】

- 山田町役場(関係各課) ほっとサポートセンター
- 岩手県北自動車(株) 山田町商工会
- 山田町観光協会 山田町有志のみなさま

- ～ご注意とお願い～
- この地図は、2012年5月25日現在の情報にもとづいて作成しています。
- レイアウトの都合上、上下左右の縮尺を変更して掲載しています。
- バスの詳しい路線・時刻については岩手県北自動車(株)へお問い合わせください
- 掲載内容に不備がありましたら、右記事務局までお知らせください。

【制作・ご意見・ご要望、お問い合わせ】

みえ災害ボランティア支援センター 事務局
〒514-0009 三重県津市羽所町700番地 アスト津3階
電話 059-226-6916 FAX 059-226-6918
メール center@mvs.jp ホームページ <http://mvs.jp>

活動支援金への募金にご協力ください

息の長い支援が続けられるよう、皆様からのご協力をお願いいたします。
募金は東日本大震災の被災地支援活動を行う NPO やボランティアの活動支援費として活用させていただきます。

活動支援金募金に関する最新情報は、下記ホームページをご覧ください。

<http://mvsc.jp/donate/>

百五銀行

百五銀行 津駅前支店

口座番号 (普) 855116

口座名義 ミエサイガイボランティアシエンセンター

※百五銀行全店の窓口・ATM からの振込手数料無料 (2013 年 9 月末まで)

ゆうちょ銀行

口座番号 00830-2-169995

口座名義 ミエサイガイボランティアシエンセンター



活動報告書

編集・発行：みえ災害ボランティア支援センター

発行日：2013 年 3 月 11 日

写真提供：ボランティアの皆さん、佐藤辰也

※本書掲載写真・記事の無断転載を禁じます。

この刊行物に対するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒514-0009

三重県津市羽所町 700 番地アスト津 3 階

TEL : 059-226-6916 (9:00-21:00)

FAX : 059-226-6918

E-MAIL : center@mvsc.jp

URL : <http://mvsc.jp/>